

京都大学
東南アジア研究センター要覧

昭和62年度版

ま え が き

『東南アジア研究センター要覧』は、これまで創立15周年や20周年などの節目を記念して、当センターの研究活動を回顧し、あわせて機構や研究の現状を報告する冊子として作成されてまいりました。ところが、5年ごとの要覧発行では、ごく近年のスタッフの異動や新たな研究成果をお知らせするのに、いささか期間が長きにすぎたため、最新の情報を掲載した要覧を望む声がセンター内外から聞かれるようになりました。本要覧は、このような要望にこたえるために、作成されたものであります。

本要覧を作成するにあたりましては、センターでの研究活動の現状をできるだけ詳しくご紹介することを、まず第一の目的といたしました。そのため、センターの歴史や機構に関する記載を最小限にとどめ、近年の研究会やシンポジウムの概要、あるいは研究スタッフ紹介などに多くのページをさくようにいたしますとともに、『東南アジア研究』以外で、センターから発行された出版物を「出版目録」としてもらさず掲載することといたしました。従いまして、本要覧は、過去に出版されました要覧にくらべますと、いわば「縮小版」ともいえる体裁ではあります。近年の研究活動を概観いただくには十分な情報が掲載されているものと思われまます。本要覧によって、センターでの研究活動をさらに広く内外にお知らせできますことを喜びとするものであります。

わが国と東南アジアとの関係が今後ますます深まっていくことは、言うまでもありません。「国際化時代」といわれるわが国の現状をまえに、東南アジア地域についての学問的認識をさらに深め、これまで培われた東南アジア研究の学風をさらに創造的に発展させるべく努力を重ねる所存であります。この機会をかりまして、一層のご教導を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

昭和62年12月1日

京都大学東南アジア研究センター

所 長 石 井 米 雄

目 次

第1章	性格と沿革	1
第2章	機構と組織	4
	(1) 機 構	
	(2) 協議員	
	(3) 職 員	
	(4) 海外連絡事務所	
	(5) 学内研究担当教官	
	(6) 学外研究協力者	
	(7) 大学院教育	
第3章	研究活動	8
	(1) 調査・研究	
	(2) 国際交流	
	(3) シンポジウム・セミナー・研究集会	
	(4) 研究会等	
	(5) 東南アジアセミナー	
	(6) 資料収集	
	(7) 出 版	
第4章	研究スタッフ	19
	(1) 研究部門	
	(2) 資料部	
第5章	出版目録	40
	(1) 東南アジア研究叢書（和文, 英文）	
	(2) 研究報告書シリーズ	
	(3) 『東南アジア研究』特集一覧	
	(4) リプリント・シリーズ	
	(5) ディスカッション・ペーパー	

第1章 性格と沿革

京都大学東南アジア研究センターは、東南アジアおよびその周辺諸国を総合的に研究することを目的として設立された特色ある研究機関である。東南アジアとは、ベトナム、ラオス、カンボジア、タイ、ビルマ、マレーシア、シンガポール、インドネシア、フィリピン、ブルネイの10ヵ国をさすが、研究の対象としては、厳密にこの範囲に限定しているわけではない。仏教の研究のためスリランカをふくめ、熱帯稲作の研究のためバングラデシュ、インドにまで手をひろげ、対外経済活動の研究のためには香港、台湾、韓国をも対象としたこともある。周辺諸国というのは、この意味である。

我々の研究方法は、欧米の「地域研究」Area Studies とくらべて、東南アジアの自然環境的諸要因の自然科学的研究をもふくむ点において、人文科学とくに人類学と政治学を中心とする欧米の研究手法とは異なる特色をもっている。この意味で我々は自らこのような研究態度を「総合的地域研究」Integrated Area Research と呼ぶことがある。さらに当センターは、上述の学際的研究方法に加えて、その研究対象の力点を近代以降の東南アジアにおき、かつ文献解釈的研究よりは現地調査を重視して、現在の生きいきとして活動し、変転している東南アジアの学問的理解に貢献することを期している。

近隣のアジア諸国とわが国との学術文化の交流が深まるにつれて、当センターが地域研究の中心として果たすべき役割への期待はいよいよ高まりつつあるが、その要請にこたえるため、当センターとしては、東南アジア諸国の学者・文化人はもちろん、東南アジア研究に関心をもつ世界の学者との不断の交流につとめている。そして同時に東南アジアに関する文献資料の収集と学問的情報の交換を行い、それらをひろく内外の学者に利用してもらえるような態勢を整備しつつある。学問研究の国際交流は、これからの日本にとって大きな課題であるが、とくに近隣の東南アジアの基礎的研究を志向している当センターは、この先達でありたい。

東南アジア研究センターが、京都大学に正式に設置されたのは、1965年のことである。それより以前、1963年1月には、本学に学内措置として「東南アジア研究センター」が設けられた。学内措置として創設せられた当時は、もっぱら民間からの寄付金とフォード財団からの研究奨励金を委任経理金として受け入れ、それによって多数の本学教官を東南アジア各地の現地調査に派遣した。その研究活動の中心は、タイ計画とマレーシア計画とい

う二つの総合調査であった。それは人類学者による村落定着調査から、農学者による熱帯稲作の諸条件の研究に至るまで、極めて多岐にわたったが、常に現地に密着し、現地の研究者と共同して研究を進めるという態度を失わないように留意してきた。このため当初よりバンコクに連絡事務所を置き、政府機関・大学・研究者との交渉、連絡に当たらせてきた。これらの研究の成果は、1963年に創刊された『東南アジア研究』に次々と発表され、内外の学者の注目を浴びるに至った。

この成果に対する評価は、この研究センターが、1965年4月に国立学校設置法施行規則の改正による全国で初めての「研究センター」として、京都大学の正式の研究機関と認められた事によって確定したと言えよう。それより逐年研究部門の増加を認められ、1987年度までに12部門（客員部門3をふくむ）、教授13（客員部門教授相当4をふくむ）、助教授12（客員部門助教授相当2をふくむ）、助手9（客員部門助手相当2をふくむ）の定員を持つ研究機関に成長した。特にこの客員部門のうち、地域研究第一（外国人客員）研究部門は、東南アジアよりの研究者をセンターの客員研究員として迎えるもので、この種の国際交流のための部門の設置は全国で最初の試みであった。

当センターは、創設の当初以来和英両方の研究叢書の出版を行なって、研究成果を内外に問うて来ているが、1970年以降、邦文は創文社に、英文は University of Hawaii Press に出版を依頼して公刊している。また『東南アジア研究』も内外の大学その他の研究機関と交換しているばかりでなく、財団法人アジア研究協会（理事長 奥田東）に依頼して、一般に購読してもらう道をひらいている。

1969年に「バンコク連絡事務所」の運営経費が、次いで1973年に「ジャカルタ連絡事務所」の運営経費も国の予算として認められると共に、現地調査費も国の予算で認められ、ようやく当センターの現地調査を計画的に推進する最小限の基礎が与えられるようになった。それ以来センターでは、この予算を活用して、大学内の「研究担当教官」による東南アジア研究をわずかながらも支援できるようになった。また1978年度から「非常勤講師経費」を認められ、さらに1980年度には地域研究第二（客員）研究部門が設けられた事により、「学外研究協力者」が積極的に研究参加できる機会を提供できるようになった。また、1986年度からは新たな客員部門として、東南アジア諸語文献研究部門が新設された。近年、東南アジア各国の図書資料が精力的に収集されているが、この部門新設によってそれらの整理方法の確立、資料情報の一層の収集のために、東南アジア各国から書誌学者、カタログを招くことが可能となった。

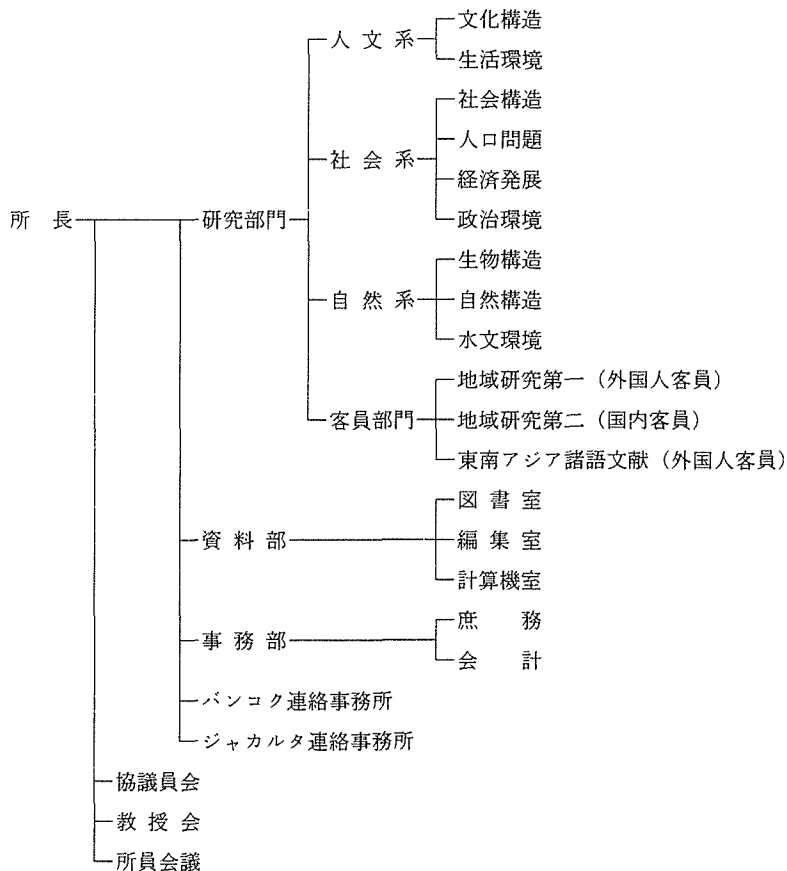
1981年以来、センターの自然科学系の二つの研究部門（生物構造並びに自然構造部門）が、本学農学研究科に新設された熱帯農学専攻の協力講座として、大学院教育にたずさわることになり、また1984年以降は新設された水文環境部門もこれに加わった。

第2章 機構と組織

(1) 機 構

1987年度現在、東南アジア研究センターは、12研究部門（客員研究部門3を含む）および1資料部からなり、また東南アジア地域の現地調査を円滑に行うための海外連絡事務所として、タイにバンコク連絡事務所を、インドネシアにジャカルタ連絡事務所を設置している。事務部は庶務・会計の2掛に分かれ、それぞれ業務を担当している。また、本センターの議決機関・協議機関として、協議員会、教授会、所員会議が設けられている。

以上を表示すれば次の通りである。



(2) 協議員

協議員会は、センターの運営に関する最高議決機関であり、センターの所長、全教授および助教授1名並びに関係学部・研究所より選任された教授または助教授に対しセンター所長が委嘱した協議員によって構成されている。

(3) 職員

センターの職員は、(イ) 研究部、(ロ) 資料部 (図書室, 編集室, 計算機室), (ハ) 事務部からなる。1988年1月現在の職員は次の通りである。

所長 教授 石井米雄

(イ) 研究部

人文系

教授	石井米雄	東南アジア史
教授	前田成文	文化人類学
助教授	土屋健治	政治思想史
助教授	加藤剛	社会学
助手	中川敏	文化人類学
助手	桃木至朗	東南アジア史

社会系

教授	市村真一	計量経済学, 経済発展論
教授	矢野暢	政治学, 地域研究論
教授	坪内良博	社会学, 人口学
教授	吉原久仁夫	経済学
助教授	江崎光男	計量経済学, 経済発展論
助教授	桜井由躬雄	東南アジア社会経済史
助教授	五十嵐忠孝	人類生態学
助手	木之内秀彦	政治学

自然系

教授	高谷好一	自然地理学
教授	海田能宏	熱帯水文学

教授	福井捷朗	農業生態学
助教授	古川久雄	熱帯稲作地理
助教授	田中耕司	作物学
助手	内田晴夫	かんがい排水学
助手	河野泰之	土地・水利用学

客員研究部門

地域研究第一（外国人客員）

Luu Ngoc Trinh	経済政策学
Aran Patanothai	農業生態学
Ongkhokham	インドネシア社会経済史
Francisco Sionil Jose	フィリピン社会の評論・著述

地域研究第二（国内客員）

教授	吉川利治	タイ語・タイ史
助教授	野間晴雄	地理学

東南アジア諸語文献（外国人客員）

Marcelino A. Foronda	フィリピン文化史
Marasri Sivaraks	タイ語書誌学，図書館学

(ロ) 資料部

助手	米沢真理子（編集室）	
助手	北野康子（図書室）	東南アジア書誌学
事務補佐員	岩本祥子（ 〃 ）	
助手	柴山守（計算機室）	計算機工学
助手	永田好克（ 〃 ）	言語情報処理

(ハ) 事務部

事務長	事務官	谷口良三
庶務掛	掛長	事務官
	事務官	大塚勝弘
	事務官	山本重夫
	事務官	岸本清隆
	事務官	小川綾子
	臨時用務員	二股房子

会計掛	掛長	事務官	西村	廉
		事務官	片山	肇
		事務官	車井	俊也

(4) 海外連絡事務所

(イ) バンコク連絡事務所

バンコク連絡事務所（所在地、3 Soi 25, Sukhumvit Road, Bangkok, Thailand, 電話 258-2662）は、1963年10月に開設されて以来、5度にわたって駐在地の変更があったが、この間のべ42名が駐在の任に当たった。

(ロ) ジャカルタ連絡事務所

ジャカルタ連絡事務所（所在地、Jalan Erlangga II, No.11, Kebayoran Baru, Jakarta, Indonesia, 電話 77-2397）は、1970年10月に開設されて以来、3度にわたって移転があったが、この間のべ24名が駐在の任に当たった。

(5) 学内研究担当教官

当センターは、東南アジア研究に関心をもつ学内各学部・研究所の教官に、研究担当教官として参加を委嘱している。1987年度において、これらの学内研究担当教官は124名を数える。

(6) 学外研究協力者

当センターは、総合的に地域研究を実施するため、東南アジア地域の研究に関心をもつ全国各地の大学・研究機関等の研究者に、研究協力を仰いでいる。1987年度において、これらの研究協力者は174名である。

(7) 大学院教育

1981年以来、センターの自然系の二つの部門（生物構造並びに自然構造部門）が、本学農学研究科に新設された熱帯農学専攻の協力講座として、大学院教育にたずさわることになり、また1984年以降は新設された水文環境部門もこれに加わった。現在6名の教官が講義と研究指導を担当している。現在、東南アジア諸国からの留学生4名を含む9名の専攻大学院生がこれらの協力講座に属している。

第3章 研究活動

(1) 調査・研究

(イ) 共同研究

センターの調査・研究活動は個別研究と共同研究に大別されるが、共同研究のうち、センターの大部分のスタッフの関与するものは、センター研究計画（プロジェクト）として推進されている。1980年度から1984年度までの5ヵ年計画として、「東南アジア世界の形成過程に関する総合的研究」というテーマのもとに、このセンタープロジェクトが遂行され、また1985年度から、第2次5ヵ年センタープロジェクトとして新たに「東南アジア世界の成立と展開に関する文明論的総合研究」に着手した。これら共同研究は、現地調査を中心として行われること、学際的なチームメンバーを組んで行われること、東南アジア地域の外国人研究者の参加を得て行われることを特色としている。

1980年度から開始された「東南アジア世界の形成過程に関する総合的研究」5ヵ年計画は、1984年度をもって一応完結した。同研究ではA計画「熱帯モンスーン・エコシステムにおける農業の発展と地域間交渉の展開」とB計画「小型家産制国家の社会基盤と経済発展」の二つの研究班が編成された。各研究班はこれまでに報告書、研究論文、研究書の刊行、シンポジウムの開催などによって研究成果を発表してきた。その内容は、『昭和60年度版センター要覧』に詳しく紹介されているので参照されたい。

また、1985年度より、センターは新たな共同研究5ヵ年計画を発足させ、現在進行中である。これは、総合テーマを「東南アジア世界の成立と展開に関する文明論的総合研究」とし、四つのクラスターから成り立っている。すなわち、クラスターA「外文明と内世界」、クラスターB「文明と国家形成」、クラスターC「文明と生態環境」、クラスターD「文明と経済環境」である。いずれのクラスターも、文部省科学研究費補助金（海外学術調査）あるいは国際協力事業団その他の援助を得て、精力的な調査を進めており、来年度以降、順次研究成果が公刊される予定である。

(ロ) 個別研究

現在のセンターのスタッフによる個別研究については第4章「研究スタッフ」の紹介の項をご参照願いたい。

(ハ) 学内研究担当教官等による現地調査

センターには学内研究担当教官等のための現地調査費が文部省の予算措置として認められているが、近年は予算額が限られているために多くの調査計画のうちごく一部が実現されているにすぎない。1985、86年度の実績は以下の通りである。

年度	氏名	所属	調査国	調査内容
1985	縄田 栄治	農学部	タイ	ダムナンサドゥアタ地域における栽培体系に関する研究
1986	泉 孝英	結核胸部研	タイ、マレーシア、シンガポール、香港	びまん性汎細気管支炎の臨床疫学的調査

(2) 国際交流

センターにおける研究活動の推進とその寄与を深めるため、種々の形で外国の研究者、専門家との交流にも力が注がれている。

(イ) 外国人研究者の招聘

1975年度より客員研究員の制度をセンターに設け、主として東南アジア諸国の研究者を招聘し、滞在中センター研究スタッフの一員として共同研究あるいは意見の交換を行なっている。そのほかにも随時、外国人研究者の訪問、滞在を受け入れ便宜を計っている。以下は1985年度以降にセンターにおいて研究を行なった外国人研究者のリストである。但し、1985年度のうち、すでに『昭和60年度版センター要覧』に掲載された研究者は除かれている。

A. 外国人客員研究員

Supamard Panichsakpatana	1985—86	湿潤熱帯における畑作の可能性に関する研究	Kasetsart University (タイ)
Srisakra Vallibhotama	1986	日本とタイの稲作に関する考古学的研究	Silpakorn University (タイ)
Marcelino A. Foronda, Jr.	1986—87	イロカノ語文献の研究	De La Salle University (フィリピン)
Mochtar Naim	1986—87	メサンタラ文化の比較研究	Andalas University (インドネシア)
Mely Giok-Lan Tan	1986—87	インドネシア華人社会の研究	Indonesian Institute of Sciences (インドネシア)

Benjawan Orasutthikulchai	1986—87	タイ語文献分類学	Kasetsart University (タイ)
Felipe Bautista Miranda	1986—87	投票行動分析によるフィリピン政党政治の研究	University of the Philippines (フィリピン)
Omar Farouk S. A. B.	1986—87	ムスリム・マイノリティの比較研究	University of Malaya (マレーシア)
Nualchawee Suthamwong	1987	タイ語の書誌調整	Thammasat University (タイ)
Aroonrut Wichienkeo	1987	「三印法典」本文コンピューター化のためのセグメンテーション	Chiang Mai Teacher's College (タイ)
Tasnee Attanandana	1987	東南アジアの酸性硫酸塩土に関する研究	Kasetsart University (タイ)
Luu Ngoc Trinh	1987—88	日本の対アセアン経済政策の発展及び進出企業の経営管理	Committee of Social Sciences (ベトナム)
Aran Patanothai	1987	農業生態に関する研究	Khon Kaen University (タイ)
Marasri Sivaraks	1987—88	葬式本の書誌情報及び目録情報の研究	Bangkok Bank (タイ)
Onghokham	1987—88	19世紀後半のインドネシアにおける資本主義の成立と華僑	University of Indonesia (インドネシア)
Francisco Sionil Jose	1988	フィリピンを中心とした東南アジアの社会問題	評論家 (フィリピン)

B. その他の外国人学者

Aris Poniman Kertopermono	1985—86	リモートセンシングによるココヤシ地区の評価についての研究	National Coordination Agency for Surveys and Mapping (インドネシア)
Peter David Drysdale	1986—87	国際貿易及び国際経済政策に関する研究	The Australian National University (オーストラリア)
Shamsul Amri Baharuddin	1987	マレーシア社会農村部における社会変動と文化変容	National University of Malaysia (マレーシア)
Aris Poniman Kertopermono	1987	リモートセンシングによるココヤシ地区の評価についての研究	National Coordination Agency for Surveys and Mapping (インドネシア)
Soontree Patanothai	1987	東北タイにおける作物病害の生物学的防御	Khon Kaen University (タイ)

(ロ) 留学生の派遣と受け入れ

センターは東南アジア研究を志す研究者の養成と国際交流の目的で、センターの若手研究者、京都大学の大学院生、およびその他の学生、若手研究者を欧米と東南アジアに留学生として派遣し、あるいは留学の便宜をはかってきた。

また、東南アジア諸国の学生をセンターの研修員として受け入れ、その指導に当たった。1985～87年度に受け入れた外国人研究生（研修員）は次の通りである。

Eniarti D. Budiharga	1986—87	日本とインドネシアの家族構造の比較(インドネシア)
Chairat Gua-Arun	1986	コンピュータ運営管理及び技術情報システム(タイ)
Salim Muhammad	1986	バングラデシュにおける作付体系 国費外国人留学生 (バングラデシュ)
Sahid Susanto Nartowardjono	1987	流域水管理と土地利用 国費外国人留学生 (インドネシア)
Somkiat Konchan	1987	東北タイ天水稲作村の農業生態 国費外国人留学生(タイ)

(3) シンポジウム・セミナー・研究集会

東南アジア研究に関して内外の研究者とより広く意見を交換するため、これまでに数多くのシンポジウム、セミナー、ワークショップ、研究集会などが、センターの主催または他機関との共催で開かれた。1985年度までに開かれたものについては、『昭和60年度版センター要覧』に記録されているので、1985年度以降最近の3年間に開催された主なものについて簡単な趣旨とプログラムを掲げておく。

1. 「ドンデーン村：東北タイの総合的農村研究」コンケン・セミナー

(1985年11月7-8日)

1981年以来続けられてきた「タイ国村落構造の動態的研究—20年間の追跡調査」(通称、ドンデーン村プロジェクト)の成果をタイ側の研究者と共に検討することを目的として、研究の現場に近いコンケン大学で開かれた。また、このセミナーはタイ研究の成果をタイに還元するという期待のもとに、日本学術振興会ならびにタイ学術会議の支援を受けた。

「挨拶」	コンケン県知事	「村のたたずまい」	海田 能宏
	タイ学術会議事務局長	「土地利用と農耕技術」(岐阜大)	宮川 修一
「趣旨説明」	石井 米雄	(岡山大)	黒田 俊郎

「稲作の不安定性」	海田 能宏	「社会経済の変化と親族の共働・共食」	
「人口と村外移住の問題」	福井 捷朗	(竜谷大) 口羽 益生	
	(竜谷大) 林 行夫	(滋賀短大) 武邑 尚彦	
「村落経済の変化」	(農学部) 辻井 博	「村落の全体像をどうとらえるか」	福井 捷朗
「村の行政とリーダーシップ」		「総合討論」	司会 石井 米雄
(チュラ大) プラサート・イェームクリンフン		(チュラ大) プラサート・イェームクリンフン	

2. 創立20周年記念シンポジウム「東南アジア世界への視座

——総合生態学の方法を求めて——(1986年3月15-16日)

自然科学・人文科学・社会科学の諸分野の研究者からなる東南アジア研究センターが、20周年を迎えて、その総合性と学際性を強調しながら企画した記念シンポジウムで、東南アジア地域の全体像を呈示する試みがなされた。

「趣旨説明——総合生態学の方法」	矢野 暢	第3セッション	
第1セッション		問題提起V「歴史生態学の視座」	矢野 暢
問題提起I「自然生態構造」	古川 久雄	第4セッション	
問題提起II「生産生態学の視座」	福井 捷朗	冒頭発言「生態学的手法について」	田中 耕司
第2セッション		「地域経済と経済学」	江崎 光男
問題提起III「社会生態学の視座」	坪内 良博	「東南アジア世界」	土屋 健治
問題提起IV「文化生態学への視座」	前田 成文	討論	
特別報告「東南アジア研究の二十年」	市村 真一		

3. 植民地支配と東南アジア(1986年7月5-6日)

1981年の「東南アジアの〈まち〉と〈むら〉」シンポジウム以来毎年行われてきたものの第5回目当たる。植民地支配の東南アジア的なかたちの諸相を明らかにする一方、国際政治や国際経済のわくのなかにそれを定置することをこころみ、各方面からの報告と活発な討論が行われた。「植民地学の構図」を描き出す新しいこころみとして注目を集めた。

第1セッション 問題提起		第3セッション	
I. 「コロニー」とは何か	坪内 良博	植民地学の構図(2) —植民地主義の展開—	
II. 政治空間としての植民地	土屋 健治	I. 植民地経済と華僑 (東京大) 濱下 武志	
III. 「脱植民地化」の論理	矢野 暢	II. 日本の南進と「文化工作」	
第2セッション		(早大) 後藤 乾一	
植民地学の構図(1) —植民地空間の展開—		III. 「仏領インドシナ」論	
I. エスニシティの増幅	前田 成文	(大阪外大) 白石 昌也	
II. 植民地の都市空間	加藤 剛	第4セッション 総合討論	
III. 植民地的生産空間の創出	高谷 好一		

4. Thai-Japanese Relations: Development and Future Prospect (1987年1月15-16日)

これは、1986年度から始まったタマサート大学と京都大学の拠点大学方式による研究交流の一環として、タマサート大学日本研究センターで日・タイの研究者が参加して開かれた最初のセミナーである。今回のテーマは、日・タイ関係及び日・タイ比較に焦点がしばられた。

Thailand and Japan; A Century of Relation	(Thammasat Univ.) Likhit Dhiravegin
The 15th・16th Century of Ryukyuan Documents on Siam	Ishii Yoneo
Japan's Repayment of the Special Yen Account to Thailand during the Second World War	(Tokyo Univ. of Fishery) Ichikawa Kenjiro
The History of Anti-Japanese Movement in Thailand	(Thammasat Univ.) Prasert Chittiwatanapong
Pacific Basin Community	(Thammasat Univ.) Surachai Sirikrai
Intermediate Modernization in Japanese Business and Its Implications to Southeast Asia	Yoshihara Kunio
Japanese Working Women	(Mahidol Univ.) Malinee Wongpanich
A Comparative Study of the Frontier and Settlement Formation; Hokkaido & Central and North Eastern Thailand	Tsubouchi Yoshihiro
Education and Modernization in Japan	(Nagoya Univ.) Ushiogi Morikazu
Mishima and Thailand	(Wakayama Univ.) Shimokobe Yukiteru
Japanese Q. C. C. in Thailand	(Thammasat Univ.) Therasakdi Kumbanarak

5. 日本ベトナム初期稲作比較論 (1987年7月9-12日)

古代日本稲作とベトナム稲作の相似についてはすでに古くから指摘されているが、これは両国考古学者・農学者が、ともにこの問題について討論比較する最初の企画となった。ベトナム側からは、ベトナム社会科学委員会、ハノイ大学歴史理論科、ベトナム農業科学技術院から関係者を招き、日本側からはセンター、奈良国立文化財研究所その他からの関係者が参加した。社会科学委員会のホ・ホアン・ホア女史および富田健次氏（大阪外国語大学）の通訳を介しての討議は、日本ベトナム相方に極めて有益な問題提起をもたらした。

「ベトナム金属文化期に関する一般的説明」 (鹿児島大) 新田 栄治	「ベトナム初期金属器文化遺跡の立地」 ハーバンタン
「縄文栽培文化の特質」(明治大) 戸沢 充則	「日本初期農耕の立地・水利・土壌について」 古川 久雄
「稲作の成立」(大阪大) 都出比呂志	「コメント」(農学部) 久馬 一剛
「ホアビンフングエン文化における農耕」 チューバンタン	「弥生人の農業生活」(天理大) 金関 恕
「弥生水田遺跡について」 (奈文研) 工楽 善通	「フングエン・ドンソン時代の人と生活」 ハーバンタン

「弥生農業における農具の発展」	展開	ダオテツァン
(奈文研) 黒崎 直	「コメント」	渡部 忠世
「フングェンドンソン期における出土農具について」	「総括—弥生稲作よりみたるフングェンドンソン期農業」	(奈文研) 佐原 真
チューバンタン	「総括—東南アジア初期稲作よりみたるフングェンドンソン期農業」	高谷 好一
「コメント」	「コメント」	ファンフィトン
田中 耕司	「総括討論」	
「弥生農業における稲品種の展開」		
(国分寺市文化財審議会) 佐藤 敏也		
「フングェンドンソン期における稲品種の		

(4) 研究会等

センターでは、比較的大きなシンポジウム・セミナーの他に、各種の研究会が開催されている。テーマを絞った、定期的な「研究例会」、センタースタッフ全員で進行中の共同研究を検討する「プロジェクト報告会」、センターの客員部門の外国人研究員や折々にセンターを訪問する外国人研究者による「特別研究会」などの他にも、共同研究グループ内部での検討会、少人数での定期、不定期の研究会、他の機関との共催による各種研究会（例えば、東南アジアの自然と農業研究会、東南アジア史学会関西例会、漢籍を読む会、東南アジア伝統農業読書会、経済発展研究会）などがあり、常時センター内外の人々の出入りがたえない。

(5) 東南アジアセミナー

東南アジアセミナーは、数十人の受講者を募り、東南アジアの自然、文化、社会等について概説し、専門的研究に必要な基礎知識を付与するため、集中的な講義及び演習を行うことを目的とし、1976年から毎年夏に2週間開催されているものである。近年は、年ごとに異なるテーマを決め、かなり専門的な講義も含めており、受講者から好評を得ている。1986、87年度のセミナーのテーマ、講義題目、講師の一覧を掲げておく。

1986年度

テーマ「東南アジア世界へのアプローチ」(7月7-19日)

「開講にあたって」	石井 米雄	〔生態環境と生活空間〕
「図書資料紹介」	北野 康子	(1)「東南アジアの生態史的枠組」 高谷 好一

- (2) 「島嶼部の環境と農業適応」 田中 耕司
 (3) 「潮汐低地の人と生業」 古川 久雄
 (4) 「東北タイ—開拓空間の形成と将来の展望」
 海田 能宏
 (5) 「稲作文化の系譜」 渡部 忠世
 セッション討論 海田 能宏ほか
 〔社会単位の形成〕
 (1) 「〈むら〉の世界」 五十嵐忠孝
 (2) 「〈まち〉の世界」 加藤 剛
 (3) 「親族と社会組織」 前田 成文
 (4) 「社会と人口」 坪内 良博
 (5) 「Kingdom and Colonial State —Burmese
 Experiences—」
 (センター客員) Michael Aung-Thwin
 セッション討論 加藤 剛ほか
 〔歴史と国家〕
 (1) 「東南アジア前近代国家の類型」 桃木 至朗
 (2) 「〈ジャワ〉から〈インドネシア〉へ—イン
 ドネシア・ナショナルリズム再論—」
 土屋 健治

- (3) 「フィリピン民族主義運動と国民意識」
 鈴木 静夫
 (4) 「東南アジアにおける〈国家〉と支配：試
 論」 矢野 暢
 (5) 「現代政治システムの分析：フィリピン」
 片山 裕
 セッション討論 桃木 至朗ほか
 〔地域経済と発展〕
 (1) 「経済発展と農村」
 (センター客員) 北原 淳
 (2) 「農村の変容—東北タイの一農村の事例—」
 福井 捷朗
 (3) 「民族資本の形成—フィリピンの事例を中
 心に」 吉原久仁夫
 (4) 「経済発展と所得分配」 江崎 光男
 (5) 「アジア経済の発展と日本の役割」
 市村 真一
 セッション討論 市村 真一、福井 捷朗ほか
 〔総合討論〕 石井 米雄ほか

1987年度

テーマ「東南アジア世界の政治と革命」(7月13—25日)

- 「開講にあたって」 石井 米雄
 「東南アジア政治研究のための文献解題」
 北野 康子
 〔総論—政治生態学の手法〕
 (1) 「政治への生態学的接近」 矢野 暢
 (2) 「国家生成の生態学的基盤」 高谷 好一
 (3) 「村落の政治」 坪内 良博
 (4) 「政治人類学の手法」 前田 成文
 (5) 「東南アジアの伝統国家」 桜井由躬雄
 (6) 「東南アジアの近代国家」 土屋 健治
 〔東南アジアの政治の構造〕
 (1) 「支配権力の構造」 桜井由躬雄
 (2) 「政治文化としての権力構造」 土屋 健治
 (3) 「官僚制の構造」 (岡山大) 片山 裕
 (4) 「二重社会の政治社会学」 加藤 剛

- 〔東南アジアにおける社会発展と政治〕
 (1) 「社会発展と政治発展」
 (大阪市立大) 末廣 昭
 (2) 「近代化とはなにか」 加藤 剛
 〔東南アジアにおける政治的正統性の特質〕
 (1) 「政治と宗教」 石井 米雄
 (2) 「土俗・宗教・政治」(鹿児島大) 寺田 勇文
 (3) 「劇場国家の構造」(東京大) 関本 照夫
 〔東南アジアにおける社会的変動と政治〕
 (1) 「土地制度と政治」 大木 昌
 (2) 「体制と反体制」 桜井由躬雄・土屋 健治
 〔東南アジアにおける政治変動〕
 (1) 「インドネシア9・30事件の政治過程」
 土屋 健治

- | | | | |
|-------------------|--|---------------------|--------|
| (2) 「タイの『学生革命』」 | | [東南アジアの国際関係] | |
| (大阪外大) 赤木 攻 | | (1) 「東南アジアの冷戦」 | 矢野 暢 |
| (3) 「フィリピン『二月革命』」 | | (2) 「ベトナム戦争」 | 桜井由躬雄 |
| (京都産大) 吉川 洋子 | | (3) 「東南アジアの地域主義の歴史」 | |
| (岡山大) 片山 裕 | | (東京大) 山影 進 | |
| (千葉大) 藤原 帰一 | | (4) 「日本と東南アジア」 | |
| | | (大阪外大) 白石 昌也 | |
| | | 「総合討論」 | 矢野 暢ほか |

(6) 資料収集

東南アジアの研究を深化、発展させるために各種の資料収集がとりわけ重要なことは言うまでもない。1965年に図書室が開設されて以来、東南アジア地域にかかわる専門書を中心に収集を進めてきた結果、1987年3月現在46,399冊（内洋書35,135冊，和漢書11,264冊）を所蔵するにいたった。研究資料としては次のような特記すべき資料がある。

現地語資料

1983年度以来、5ヵ年間の文部省の特別予算を得て、東南アジア諸地域の言語で書かれた資料を中心に収集を始め、4ヵ年経過後の現在、図書31,513冊，マイクロフィッシュ110ケース，マイクロフィルム719リールを蔵している。図書は、東南アジア各国の官公庁文書，旧植民地文書，統計をはじめ，重要な新刊書などは専門書のみにとどまらず，小説などをも含めて収集することになっている。今後，地域の重要なコレクションなどを含めてより充実した収集となるようめざしている。

マイクロフォーム

1971年以降，「インドネシア関係文献マイクロフィッシュ」の一部を継続的に購入したのを始め，その後機会のあるごとにその充実をはかってきた。この結果，現在までにマイクロフィルム約900リール，マイクロフィッシュ約4,000ケースが納められている。このうち，フィルムは，東南アジア諸国統計資料，インドシナ三国近・現代史資料，第2次大戦下の東南アジア関係資料などを含み，フィッシュは，コーネル大学およびオランダ王立言語民族文化研究所が所蔵するインドネシア関係資料を主としている。

雑 誌

センターで継続的に登録されている定期刊行物は洋雑誌262, 和雑誌112を数える。このうち東南アジアを専門に対象とする雑誌は、創刊号から揃っている *BEFEO* をはじめとして50タイトル近くに及ぶ。東南アジアを含むアジア一般, 熱帯, 開発に関するタイトルは43点である。このほかすでに刊行されていない雑誌もかなりあり, 東南アジア関係では有名な Logan の *JIAEA* や *Djawa* をも含めて18タイトル, アジア関係では, London から出た *Asiatic Quarterly Journal* 及びその後身 (1886-1912) や *Mondes Asiatiques* など12タイトルある。これらの地域関係雑誌の多くは欧米発行のものであるが, 東南アジアの大学・研究機関の刊行する雑誌も増えてきており, それらはできるだけ収集するように努めている。その他 *Tempo*, *Prisma*, *Tenggara* などのような各国語の週刊誌, 総合雑誌, 文芸批評誌も定期購読している。

統 計

東南アジア・東アジア諸国の政府出版物を中心に, Yearbook, Handbook, Bulletin, Digest, Journal, Indicators 等, 統計に関連する年刊・季刊・月刊の各種定期刊行物が継続的に受け入れられている (約65点)。センサス統計, 標本調査, その他各種不定期刊行物も, 刊行の都度, できる限り広範囲に収集する努力が続けられている (累計約120点)。分野別にみれば, 国民所得, 財政, 金融, 貿易, 労働, 人口など経済関係の統計が大半を占め, 国別にみれば, インドネシアの比重が相対的に高い。

国別統計に加え, 国連諸機関や IMF, 世界銀行, アジア開発銀行等の国際機関による出版物も, 他部局との重複を考慮した上, 必要最小限の基本統計および開発途上国関連の統計に限って, 定期購入されている (約20点)。

地 図

所有する地図は東南アジア地域を中心に, インド, バングラデシュ, スリランカ, ネパール, パキスタン, 中国, 朝鮮, オーストラリア, 太平洋諸島及び日本周辺と, ほぼ南アジアから東アジア全域をおおっている。製作年代も, 戦前のものから近年の航空測量によるものまで, 多岐にわたっており, 現在約1万7千枚余に及んでいる。この中には, 旧陸地測量部による南アジア, 東南アジア, 東アジアの2万5千分の1, 5万分の1地形図等, 歴史的にみても貴重なコレクションもある。また, 数は少ないが, 東南アジア各国の土地利用図, 地質図, 植生図などの主題図も含まれている。

ランドサット写真

1978年からランドサット写真の収集をはじめ、現在約1,600シーンの写真を蔵している。収集地域は、濃淡はあるものの、東南アジア全域（とくにインドシナ、タイ、フィリピンなどが多い）、インド亜大陸東半分からバングラデシュ全域、南中国の一部及び日本の一部である。可能なかぎり2季節以上のシーンを選んでいる。100万分の1の白黒ポジフィルム（バンド4、5及び7）を中心に集めており、必要に応じてジアゾフィルム現像機でフォールスカラー合成画像をつくり、製版用カメラで拡大カラースリットをつくるなどの方法で利用されている。

（7） 出 版

東南アジア研究センターにおけるさまざまな研究活動の成果は、センターが刊行する出版物を通じて発表されている。センターは、1963年以来『東南アジア研究』（年4回刊行）を出版しているほか、和文・英文の『叢書』、シンポジウムの報告や科学研究費その他各種奨学金などによる研究の報告書等を含む『報告書シリーズ』、『リプリント・シリーズ』、『ディスカッション・ペーパー』等を刊行している。また、1979年度以来、『センター・ニューズレター』を年2回発行し、研究活動等の広報を行なっている。

『東南アジア研究』は現在25巻3号（通巻102号）になっており、所収論稿は膨大な数にのぼる。第1号から23巻4号までに掲載された論文、研究ノート、書評などの全ての報告は、『東南アジア研究』別冊（23巻5号）に総目録として収録されている。その他のセンターの刊行した図書、論稿などは、第5章「出版目録」にその一覧を掲げているので、ご参照いただきたい。

第4章 研究スタッフ

東南アジア研究センターの現職研究スタッフの略歴、現在の研究テーマ、主要な研究業績などを紹介する。各研究スタッフは、研究部門では人文系、社会系、自然系、客員部門、続いて資料部の順に配列されており、1. 最終学歴、2. 学位、3. 専門分野、4. 現在の研究テーマ、5. 略歴、6. 主要な研究業績の順である。

(1) 研究部門

人文系

石井 米雄

1. 東京外国語大学ジャム語学科中退、1955.
2. 京都大学法学博士、1980.
3. 東南アジア史
4. (1) 東南アジアにおける王権と仏教
(2) 『三印法典』の研究
5. 1955年、外務省入省（アジア局、在タイ大使館勤務）。1965年、京都大学助教授（東南アジア研究センター）、1967年京都大学教授（同）、1985年東南アジア研究センター所長、現在に至る。1965年以来、タイ、インドネシア、インド等で現地調査に従事。1973～75年、ロンドン大学SOASに研究留学。
6. (1) 『戒律の救い——小乗仏教』〔世界の宗教〕淡交社、1969.
(2) 『タイ国——ひとつの稲作社会』（編著）創文社、1975.
(3) 『上座部仏教の政治社会学——国教の構造』創文社、1975.
(4) 『インドシナ文明の世界』〔世界の歴史〕講談社、1977.
(5) 「ラオスのサンガ法——1959年サンガ勅令全訳」『仏教研究』8, 1979.
(6) 「カンボジアのサンガについて」『仏教研究』9, 1980.
- (7) 「インドネシア上座部仏教史研究ノート」『東南アジア研究』18(2), 1980.
- (8) 「ボウリング・ハリス・ド＝モンティニー三條約のタイ語テキストに関する覚え書き」『山本達郎博士古稀記念・東南アジア・インドの社会と文化』山川出版社、1980.
- (9) 「タイの伝統法——『三印法典』の性格をめぐって」『国立民族学博物館研究報告』8(1), 1983.
- (10) 「〈ボンサーワダーン〉（王朝年代記）についての一考察」『東南アジア研究』22(2), 1984.
- (11) 「ラタナコーシン朝初期における王権とサンガ——『三印法典』「サンガ布告」を中心に」『東南アジア研究』22(3), 1984.
- (12) “Modern Buddhism in Indonesia”, in G. Dhammapala *et al.* (eds.), *Buddhist Studies in Honour of Hammalava Saddhatissa*. Nugegoda, 1984.
- (13) 『差異の事件誌——異文化認識の相克』（編著）巖南堂、1984.
- (14) 「『29の訴訟項目』（Ekūnatimsā Mūlagati Vivāda）について——インド古代法「バーリ化」の一事例」『東南アジア研

- 究』23(2), 1985.
- (15) 『東南アジア世界の形成』(共著)《ビジュアル版》世界の歴史② 講談社, 1985.
- (16) “The Thai Thammasat (with a note on the Lao Thammasat)” in M. B. Hooker (ed.), *The Laws of South East Asia*. Volume 1. The Pre-Modern Texts. Butterworth & Co. (Asia), Singapore, 1986.
- (17) 「『キッチャースキット』考——19世紀シャムの知識人とキリスト教」『東洋文化』67, 1987.
- (18) 「『三印法典』本「プラ・タマサート」の構成」『東方学会創立四十周年記念東方学論集』東方学会, 1987.
- (19) 「『三印法典』の構成について」『東方学』74, 1987.
- (20) 『日タイ交流六〇〇年史』(共著) 講談社, 1987.

前田 成文

1. 京都大学文学部, 1963.
 2. シカゴ大学 Ph. D. (人類学), 1974.
 3. 文化人類学
 4. (1) マレー世界の社会と文化
 - (2) ブギス族におけるイスラームと伝統
 - (3) 社会システムと生活世界
 5. 1964年, マラヤ大学マレー学科に留学。1965年初頭に Kedah 州農村の臨地研究を3ヵ月行なった後, 同年7月から翌年5月までジョホール州でオラン・フルの民族誌的研究に従事する。1967年から2ヵ年間, マラヤ大学において日本学講座の講師を勤めた後, 1969年にセンターに奉職。1971年から1年間, マラッカ州の農村で主として社会経済的なデータに基づいて, 家族, 世界観の研究を行う。1974年から75年にかけて南ベトナムのメコン・デルタの農村のリーダーシップの調査。同年11月から翌年3月までインドネシア, 南スラウェシの調査。南スラウェシの調査は1980年に再び開始し, 1984年まで3次にわたって, 主として非ムスリム教徒も住む平地村落で調査を継続する。その他, リアウ, スリランカ, 南インド, マダガスカルでも短期間のサーベイを行う。1977年から79年にかけてジャカルタの日本大使館に勤務。
6. (1) 「マレー半島におけるジャクンの親族名称」『東南アジア研究』4(5), 1967.
 - (2) 「マラヤにおけるジャクンの家族構成の特質」『東南アジア研究』5(3), 1967.
 - (3) 「ジャクン (オラン・フル) の結婚と離婚」『東南アジア研究』6(4), 1969.
 - (4) 「マラヤ原住民の経済生活」『アジア経済』10(5), 1969.
 - (5) 「ジャクン・コミュニティの社会秩序」『東南アジア研究』7(3), 1969.
 - (6) 「双系的親族組織におけるイトコ婚」『東南アジア研究』10(4), 1973.
 - (7) “The Aftereffects of Hajj and Kaan Buat,” *Journal of Southeast Asian Studies* (Singapore), 6(2), 1975.
 - (8) “Family Circle, Community and Nation in Malaysia,” *Current Anthropology*, 16, 1975.
 - (9) 『マレー農村の研究』(共編著) 創文社, 1976.
 - (10) 「コミュニティ宗教におけるシンボリズム」『東南アジア研究』14(3), 1976.
 - (11) 『核家族再考——マレー人の家族圏』(共著) 弘文堂, 1977.
 - (12) “The Malay Family as a Social Circle,” 『東南アジア研究』16(2), 1978.
 - (13) 「屋敷地共住集団と家族圏」(共著) 『東南アジア研究』18(2), 1980.
 - (14) 「生活環境と社会組織——南スラウェシの一山村誌」『東南アジア研究』20(1), 1982.
 - (15) 「稲作儀礼雑観」渡部忠世(編) 『南西諸島農耕における南方的要素』京都大学東

- 南アジア研究センター, 1982.
- (16) "A Melakan Farming Village," in P. Wheatley and K. S. Sandhu (eds.), *Melaka: The Transformation of a Malay Capital c. 1400-1980*, Oxford University Press, 1983.
- (17) 「マレーシアの家族」原ひろ子(編)『諸文化と家族』至文堂, 1983.
- (18) 「差異の文化論」石井米雄(編)『差異の事件誌——植民地時代の異文化認識の相克』巖南堂, 1984.
- (19) "An Inventory of Agricultural Rites in Amparita, Sidrap," in N. Maeda and Matulada (eds.), *Transformation of the Agricultural Landscape in Indonesia*, CSEAS, Kyoto Univ., 1984.
- (20) 「世帯と親族」石井米雄(編)『東南アジア世界の構造と変容』創文社, 1986.

土屋 健治

1. 東京大学教養学部, 1966.
2. 東京大学社会学博士, 1981.
3. 政治思想史
4. (1) インドネシア政治論
(2) ジャワ文化史論
5. 1968~70年, インドネシア共和国ガジャ・マダ大学に留学。1973年, 千葉大学人文学部助手に採用される。1974年, 東南アジア研究センター助手に配置換え, 1978年, 助教授に昇任, 現在に至る。
1975年, インドネシア国立博物館(ジャカルタ), タマン・シスワ図書資料館(ジョクジャカルタ)等にてインドネシアナショナリズムに関する研究に従事。1975~77年, ライデン大学, 王立言語民族文化研究所(ライデン), 旧植民地省文書館等にてインドネシアナショナリズムに関する研究に従事。1979~80年, インドネシア大学客員教授として「インドネシア政治思想史論」および「東南アジ

ア社会論」の講義を行う。1982年, コーネル大学東南アジアプログラムの客員研究員としてジャワ文化に関する研究に従事。1983年, タイ, フィリピン, インドネシアにおいて現代国家論に関する現地調査に従事する。

6. (1) "Fungsi Taman Siswa Dalam Pergerakan Nasional Indonesia Khususnya Dalam Tahun Tigapuluhan," *Pusara*, 40 (7), 1970.
- (2) 「スカルノとハッタの論争」『東南アジア研究』9(1), 1971.
- (3) 「サミン運動とインドネシア民族主義」『東南アジア研究』9(2), 1971.
- (4) 「タマン・シスワの研究——初期の活動に関する一考察」『東洋文化研究所紀要』62, 1974.
- (5) 「スカルノ研究の視角についての一試論——ジョン・レグ著『スカルノ伝』を手掛りとして」『アジア経済』15(12), 1974.
- (6) "The Taman Siswa Movement—Its Early Eight Years and Javanese Background," *Journal of Southeast Asian Studies* (Singapore), 6(2), 1975.
- (7) "Gerakan Taman Siswa: Delapan Tahun Pertama Dan Latar Belakang Jawa," in S. Ichimura and Koentjaraningrat (eds.), *Indonesia: Masalah Dan Peristiwa Bunga Rampai*, Yayasan Obor, Jakarta, 1976.
- (8) "The Dispute Between Sukarno and Hatta in The Early 1930's," in S. Ichimura (ed.), *Southeast Asia: Nature, Society and Development*, University Press of Hawaii, 1977.
- (9) "Perjuangan Taman Siswa Dalam Pendidikan Nasional," *Journal Penelitian Social*, 4(8), 1980.
- (10) 「南方関与の理論的枠組について」衛藤藩吉(編)『日本をめぐる文化摩擦』弘文堂, 1980.

- (11) 「キ・ハジャル・デワントロ」阿部洋
(編)『現代に生きる教育思想, 第8巻ア
ジア』ぎょうせい, 1981.
- (12) 『インドネシア民族主義研究——タマン
・シスワの成立と展開』創文社, 1982.
- (13) 「インドネシアの開発政策と政治的安定」
『海外事情』30(10), 1982.
- (14) 「インドネシアにおける政治と言語——
バ・スロ事件の文化論的考察」『国際政治』
74, 1983.
- (15) 「ジョクジャカルタ——中部ジャワにお
ける〈みやこ〉の成立と展開」『東南アジ
ア研究』21(1), 1983.
- (16) 「カルティニの心象風景」『東南アジア
研究』22(1), 1984.
- (17) 「19世紀ジャワ文化論序説——ジャワ学
とロンゴワルシトの時代」土屋健治・白石
隆 (編)『東南アジアの政治と文化』東京
大学出版会, 1984.
- (18) 「政治と言語」矢野暢 (編)『講座政治
学Ⅳ 地域研究』三嶺書房, 1987.
- (19) 「文化統合と国民形成——インドネシア
語市場圏の展開をめぐる」『国際政治』
84, 1987.
- (20) 「『ニャイ・ダシマ物語』論」『東洋文化』
67, 1987.
- 加藤 剛
1. 一橋大学社会学部, 1966.
 2. コーネル大学 Ph.D., 1977.
 3. 社会学
 4. (1) ミナンカバウ母系制社会の変容
(2) ジャカルタ都市移住民の生活
(3) 東南アジアの都市人類学
 5. 1977年, 上智大学外国語学部比較文化学科
講師に採用される。1979年, 東南アジア研究
センター助教授に採用され, 現在に至る。
1972~73年, インドネシア・西スマトラ州
においてミナンカバウ社会の変容に関する調
査, 1973~74年, 南部スマトラにおいて地域
開発における伝統的村落指導者の役割に関す
る調査, 1980~81年, ジャカルタ都市移住民
の調査, 1982年, スマトラ・リアウ州におい
てエコロジーと種族的環境適応に関する調
査, 1984~85年, リアウ州・クワンタンにお
いて村落社会史に関する調査を行う。
6. (1) 「西部スマトラ・ミナンカバウの社会構
造」早稲田大学社会科学研究所 (編)『イ
ンドネシア』早稲田大学出版局, 1979.
(2) "Rantau Pariaman: The World of
Minangkabau Coastal Merchants in the
Nineteenth Century," *Journal of Asian
Studies*, 39(4), 1980.
(3) 「矛と盾? ——ミナンカバウ社会にみる
イスラームと母系制の関係について」『東
南アジア研究』18(2), 1980.
(4) *Matriliny and Migration: Evolving
Minangkabau Traditions in Indonesia*,
Cornell University Press, 1982.
(5) 「都市と移住民: ジャカルタ在住ミナン
カバウの事例」『東南アジア研究』21(2),
1983.
(6) 「ミナンカバウ社会について」ムハマッ
ド・ラジャブ (著), 加藤剛 (訳)『スマト
ラの村の思い出』めこん, 1983.
(7) "Typology of Cultural and Ecological
Diversity in Riau, Sumatra," in N. Maeda
& Mattulada (eds.), *Transformation of the
Agricultural Landscape in Indonesia*,
CSEAS, Kyoto Univ., 1984.
(8) 「インドネシアの民俗と文化」『国際農
林業協力』8(2), 1985.
(9) 「インドネシアの都市にみる種族結合:
ネットワークと同郷会」『東南アジア研究』
23(4), 1986.
(10) 「都市のなかの『むら』——ジャカルタ
にみる婚姻形態——」石井米雄 (編)『東
南アジア世界の構造と変容』創文社, 1986.

- (1) "The Koto is Created with Consensus: Adat Community and Administrative Reorganization in Kuantan, Riau," in T. Kato, M. Lutfi & N. Maeda (eds.), *Environment, Agriculture and Society in the Malay World*, CSEAS, Kyoto Univ., 1986.

中川 敏

1. 東京大学教養学部, 1976.
2. 東京大学社会学修士, 1978.
3. 文化人類学
4. (1) 東インドネシア, エンデ族の民族誌作成
(2) 東インドネシアにおける交換の比較研究
(3) 説明と了解の一般理論
5. 1981~84年, オーストラリア国立大学太平洋研究所人類学科に留学。1984年東南アジア研究センター助手に採用され現在に至る。
1979~81年, 83年, 84年の3次にわたりインドネシア, フローレス島中部にて人類学的調査に従事。
6. (1) 「スンバ島の動・植物分類」『社会人類学年報』4, 1978.
(2) 「スンバ島における時・空間表象」『民族学研究』43(4), 1979.
(3) 「フローレス島中部エンデ族における農耕サイクル及び関連諸儀礼」『東南アジア研究』20(3), 1982.

桃木 至朗

1. 京都大学文学部, 1978.
2. 京都大学文学修士, 1981.
3. 歴史学
4. (1) 独立王朝時代ベトナムの政治構造の変遷
(2) ベトナム史の時代区分
(3) 漢籍から見た東南アジア史
5. 1985年, 東南アジア研究センター助手に採用され, 現在に至る。
6. (1) 「陳朝期ヴェトナムの政治体制に関する

- 基礎研究」『東洋史研究』41(1), 1982.
- (2) 「陳朝期ヴェトナムの路制に関する基礎的研究」『史林』66(5), 1983.
 - (3) 「日本におけるヴェトナム前近代史研究の成果と課題——独立王朝期の時代区分をめぐって」『新しい歴史学のために』175, 1984.
 - (4) 『大清実録中東南亜関係記事・乾隆(全5冊)』(編) 東南アジア史学会関西例会漢籍を読む会, 1985.
 - (5) 「ヴェトナム李朝の軍事行動と地方支配」『東南アジア研究』24(4), 1987.

社会系

市村 真一

1. 京都大学経済学部, 1949.
2. マサチューセッツ工科大学 Ph.D. (経済学), 1953. 経済学博士, 1961.
3. 計量経済学・経済発展論
4. (1) アジア諸国の計量モデル分析
(2) アジア経済発展の類型とその政治経済学
(3) 日系合弁企業の経営
5. 大阪大学経済学部教授を経て, 1968年, 東南アジア研究センター教授に着任, 現在に至る。この間, 1969年から1979年まで同所長を兼任する。

数理経済学の分野で研究活動を開始し, その後, 興味を日本経済の実証分析に移して, 産業連関分析と計量モデル作成などの業績を残した。同じ頃, 地域学分野に関心を持ち, アジア太平洋州の都市化問題等の研究を通じ, また国際会議への出席を通じて, 次第に開発途上国の発展と日本とのかかわりに関心を持つに至った。東南アジア研究センターに移籍後は, 東南アジア研究を学際的に推進することに力を注ぐとともに, 農村開発・技術移転・経営と労使関係およびエコノメトリックモデルなどの各分野を中心に, 東南アジア諸国

の比較研究に従事している。

6. (1) "Toward a General Non-Linear Dynamic Theory of Economic Fluctuations," in K. K. Kurihara (ed.), *Post-Keynesian Economics*, Rutgers University Press, New Brunswick, 1954.
- (2) 『日本経済の構造』創文社, 1957.
- (3) "Factor Proportions and Foreign Trade: The Case of Japan," (共著) *Review of Economics and Statistics*, 1959.
- (4) 「貨幣の需要函数と貨幣の供給函数」『季刊理論経済学』1962.
- (5) 「日本の輸出函数」『季刊理論経済学』1964.
- (6) 『世界のなかの日本経済』中央公論社(中公新書), 1965.
- (7) "An Econometric Analysis of Domestic Migration and Regional Economy," *The Regional Science Association Papers*, 1966.
- (8) "The Present State of Research on Urbanization and its Effects on Cultural Change in ASPAC Member Countries: A Bibliographic Survey," (共著) *ASPAC*, 1972.
- (9) "The Socio-Economic Behavior of Peasants in Central Java and Central Thailand," (共著) 『東南アジア研究』12(3), 1974.
- (10) "Interdisciplinary Research and Area Studies," *Journal of Southeast Asian Studies* (Singapore), 6(2), 1975.
- (11) *The Regional Economic Survey of South Sumatra*, LIPI, Jakarta, 1975.
- (12) *An Econometric Analysis of the Japanese Economy*, (共著) The Japanese Society for Asian Studies, 1977.
- (13) 『日本企業イン・アジア』東洋経済新報社, 1980.
- (14) "Institutional Factors and Government

Policies for Appropriate Technologies: Survey Findings in Indonesia, Thailand and the Philippines," World Employment Programme Research, Working Paper 110, ILO, January, 1983.

- (15) *Econometric Models of Asian Link*, (共著) Springer-Verlag, Tokyo-Heidelberg-New York, 1985.
- (16) *Asian Economic Development*, (編) Asia Productivity Organization, Tokyo, 1987.
- (17) *Economic Essays on Japan and Asia*, Asia Productivity Organization, Tokyo, 1987.
- (18) *Political Economy of Fiscal Policy*, (共編) United Nations University, Tokyo, 1987.
- (19) *Indonesian Economic Development*, (編) JICA, Tokyo, 1987.
- (20) 『アジアに根づく日本的経営』(編著) 東洋経済新報社, 1987.

矢野 暢

1. 京都大学法学部, 1959.
2. 京都大学法学博士, 1970.
3. 政治学, 地域研究論
4. (1) タイ国の現代政治史
(2) 東南アジアの国家構造
(3) 近代日本の南方関与
5. 1966~68年, 大阪外国語大学タイ語科専任講師としてタイ語およびタイ国事情を講義。1968~72年, 日本外交史講座の助教授として広島大学政経学部在職する。その間, 1968~69年, 米国ジョージ・ワシントン大学客員準教授として, 東南アジア国際関係の研究に従事する。1972年, 東南アジア研究センターに助教授として着任, 1978年, 同教授に昇任し, 現在に至る。
1964~66年, タイ国南部のタイ・イスラム農村に単身定着調査を行なったのはじめ, タイ国を中心に, 東南アジアの各地で, 今日

まで数次にわたる現地調査を行なっている。そして、独創的な国家論を中心に、生態学的な政治学を開拓し、旧来の政治学に新しい次元をひらいている。また、体系的な東南アジア学の構築にも関心をもち、「地域」認識のパラダイムを求めて、理論的模索を重ねている。

6. (1) 「南タイの土地所有——タイ・イスラム村落におけるケース・スタディ」『東南アジア研究』4(5), 1967.
- (2) 『タイ・ビルマ現代政治史研究(付録「タイ・ビルマ現代政治史史料集録」)』創文社, 1968.
- (3) “Sarit and Thailand’s Pro-American Policy,” *The Developing Economies*, 6(3), 1968.
- (4) 「南タイにおける通婚圏の形成」『東南アジア研究』7(4), 1970.
- (5) 「南タイ農民の村外居住体験について」『東南アジア研究』8(2), 1970.
- (6) 「南タイ農村の経済生活」『東南アジア研究』8(4), 1971.
- (7) 「タイ国の政治指導の特性——サリット『革命団布告』を主題に」『アジア経済』12(7), 1971.
- (8) 「南タイ農村の発展史的把握(一)——派生村形成の社会過程」『東南アジア研究』12(1), 1974.
- (9) “The Political Elite Cycle in Thailand,” *The Developing Economies*, 12(4), 1974.
- (10) 『「南進」の系譜』中央公論社(中公新書), 1975.
- (11) 「タイにおける『革命団布告』の政治機能——73年『10月政変』の背景についての一考察」『東南アジア研究』12(4), 1975.
- (12) 『日本の南洋史観』中央公論社(中公新書), 1979.
- (13) 『東南アジア世界の論理』中央公論社(中公叢書), 1980.

- (14) 「国民形成への『文化主義』的接近」年報政治学『国民国家の形成と政治文化』1978年度版, 岩波書店, 1980.
- (15) 「タイ国における『郡長』の政治機能——《ラーチャカーン》の政治的本質との関連で」『東南アジア研究』18(2), 1980.
- (16) 『南北問題の政治学』中央公論社(中公新書), 1982.
- (17) 「地域研究と政治学」年報政治学『政治学と隣接諸科学の間』1980年度版, 岩波書店, 1982.
- (18) 『東南アジア世界の構図』日本放送出版協会(NHKブックス), 1984.
- (19) 『冷戦と東南アジア』中央公論社, 1986.
- (20) 『講座政治学Ⅳ 地域研究』(編著)三嶺書房, 1987.

坪内 良博

1. 京都大学文学部, 1960.
2. 京都大学文学博士, 1970.
3. 社会学・人口学
4. 東南アジアの社会と人口
5. 1966年, 東南アジア研究センター助手に採用される。1970年, 助教授, 1982年, 同教授に昇任, 現在に至る。
1968~69年, プリンストン大学などで人口学に関する研修。東南アジア各地(とくにマレーシアおよびインドネシア)において現地調査に従事する。
6. (1) 『離婚——比較社会学的研究』(共著)創文社, 1970.
- (2) 「クランタンの一農村におけるタバコ耕作の導入と社会・経済変化」『東南アジア研究』9(4), 1972.
- (3) 「東海岸マレー農民における土地と居住」『東南アジア研究』10(1), 1972.
- (4) 「マレーシア東海岸の天水田地域における稲作」『東南アジア研究』10(2), 1972.
- (5) 「東海岸マレー農民における結婚と離婚」

- 『東南アジア研究』10(3), 1972.
- (6) 「マレーシア東海岸の村落住民の収入と収入源——カンボン・ガロにおけるケース・スタディ」『東南アジア研究』10(4), 1973.
- (7) 「クランタンの農村におけるポンド（寄宿宗教塾）」『東南アジア研究』11(2), 1973.
- (8) 「マレー農村におけるイスラームと離婚」『東南アジア研究』13(1), 1975.
- (9) “Marriage and Divorce among Malay Peasants in Kelantan,” *Journal of Southeast Asian Studies* (Singapore), 6(2), 1975.
- (10) 『マレー農村の研究』（共編著）創文社, 1976.
- (11) “Islam and Divorce among Malay Peasants,” in S. Ichimura(ed.), *Southeast Asia: Nature, Society and Development*, University Press of Hawaii, Honolulu, 1977.
- (12) 『核家族再考——マレー人の家族圏』（共著）弘文堂, 1977.
- (13) 「日本人の目からみたインドネシア人勤労者」『東南アジア研究』15(2), 1977.
- (14) 「コムリン川流域およびムシ川下流部における集落形成史」『東南アジア研究』17(3), 1979.
- (15) *Three Malay Villages: A Sociology of Paddy Growers in West Malaysia*, (共著) University Press of Hawaii, Honolulu, 1979.
- (16) “On the High Population Growth Rates of the Past in South Sumatra,” (共著) 『東南アジア研究』19(1), 1981.
- (17) “Traditional Migration Patterns in Southeast Asia and Their Survival,” *Journal of Population Studies (Jinkogaku Kenkyu)*, 6, 1983.
- (18) 「東南アジアにおける人口と伝統的基礎

社会の性格——島嶼部を中心として」『東南アジア研究』21(1), 1983.

- (19) 「東南アジア島嶼部における『小国』の存在形態に関するノート」『東南アジア研究』22(1), 1984.
- (20) 『東南アジア人口民族誌』勁草書房, 1986.

吉原久仁夫

1. カリフォルニア大学（パークレー校）, 1966.
2. カリフォルニア大学 Ph.D.（経済学）, 1966.
3. 経済学
4. 東南アジアにおける資本主義世界
5. ミシガン大学経済学部助教授（1966～69年）を経て、1969年、東南アジア研究センター助手として着任、1971年、同助教授、1987年、同教授に昇任、現在に至る。
この間、1970～71年客員助教授として、および1981～82年客員教授としてフィリピン大学経済学部で経済発展論を講義。1973～74年には客員フェローとしてシンガポール大学経済学部、1976～77年に客員助教授としてスタンフォード大学経済学部、および1982～83年に客員教授としてタマサート大学経済学部、1987年マラヤ大学経済学部で経済発展論を講義する。
- 6.(1) “Demand Functions: an Application to the Japanese Expenditure Pattern,” *Econometrica*, 37(2), 1969.
- (2) “Long-term Models of the Japanese Economy,” 『季刊理論経済学』20(3), 1969.
- (3) “The Problem of Accounting for Productivity Change in the Construction Price Index,” (共著) *Journal of the American Statistical Association*, 66(333), 1971.
- (4) “The Growth Rate as a Determinant of the Saving Ratio,” *Hitotsubashi Journal of*

- Economics*," 12(2), 1971.
- (5) "Productivity Change in the Japanese Economy, 1905-65," (共著)『季刊理論経済学』23(1), 1972.
- (6) 「ASEAN諸国における日本の合弁企業」『東南アジア研究』11(1), 1973.
- (7) 「日本の海外企業進出：韓国，台湾，香港，シンガポール」(共著)『東南アジア研究』12(2), 1974.
- (8) 「シンガポールの工業化と米系企業」『東南アジア研究』12(4), 1975.
- (9) 「シンガポールの工業化における外資系企業と民族系企業」『東南アジア研究』13(2), 1975.
- (10) *Foreign Investment and Domestic Response: A Study of Singapore's Industrialization*, Eastern Universities Press, Singapore, 1976.
- (11) *Japanese Investment in Southeast Asia*, University Press of Hawaii, Honolulu, 1978.
- (12) 「野村財閥の南方事業」『東南アジア研究』19(3), 1981.
- (13) *Sogo Shosya: The Vanguard of the Japanese Economy*, Oxford University Press, Tokyo, 1982.
- (14) "Business Groups in Thailand," (共著) Research Notes and Discussion Paper No. 41 (Institute of Southeast Asian Studies, Singapore), 1983.
- (15) "Indigenous Entrepreneurs in the ASEAN Countries," *Singapore Economic Review*, 29(2), 1984.
- (16) "Japanese Management in Thailand," (共著)『東南アジア研究』22(4), 1985.
- (17) *Japanese Economic Development: A Short Introduction*, 2nd ed., Oxford University Press, Tokyo, 1985.
- (18) *Philippine Industrialization: Foreign and Domestic Capital*, Oxford University Press, Singapore, 1985.
- (19) "The Problem of Continuity in Chinese Businesses in Southeast Asia,"『東南アジア研究』25(3), 1987 (近刊).
- (20) *The Rise of Ersatz Capitalism in Southeast Asia*, Oxford University Press, Singapore, forthcoming (March 1988).

江崎 光男

1. 東京大学教養学部, 1966.
2. ハーバード大学 Ph.D. (経済学), 1974.
3. 計量経済学・経済発展論
4. 東南アジア諸国における経済計画と開発政策の数量的研究
5. 1969年, 助手としてセンターに着任。1970～74年, ハーバード大学およびセンターにて日本経済の計量経済学的研究に従事, 同大学より Ph.D. を取得。1975～76年 (18ヵ月), フィリピン大学経済学部の客員準教授として計量経済学の大学院コースを担当するかたわら, フィリピン経済成長の数量的実証研究に従事, 1977年, センター助教授に昇任。1978～79年 (12ヵ月), 国連アジア太平洋経済社会委員会 (ESCAP, 在バンコク) の経済問題担当官として, ESCAP 地域のリンク・モデル作成プロジェクトに参加。1980～84年, センターのアジア・リンク・プロジェクトに継続して従事。1981～82年 (9ヵ月), ジャカルタ連絡事務所に駐在, BAPPENAS (インドネシア開発計画庁) の計画モデル作成プロジェクトに参加。1985～86年, 東南アジア諸国の経済計画と開発政策に関する海外調査を実施, 調査報告書を公表 (文部省科学研究費補助金)。
6. (1) 「マクロ生産性変化の測定1951—1968年」(共著)大川・速水(編)『日本経済の長期分析——成長・構造・波動』日本経済新聞社, 1973.

- (2) "On the Two-Gap Analysis of Foreign Aid," *Journal of Southeast Asian Studies* (Singapore), 6(2), 1975.
- (3) "Econometric Growth Model and Forecasting Simulations for Postwar Japan: 1952-1980," 『季刊理論経済学』 26(3), 1975.
- (4) "Growth Accounting of the Philippines: A Comparative Study of the 1965 and 1969 Input-Output Tables," *Philippine Economic Journal*, 14(4), 1975.
- (5) "Economic Theory and Social Accounting System," *NEDA Journal of Philippine Development*, 3(2), 1976.
- (6) "Growth Accounting of the Philippines: The Demand-for-Output Side," 『東南アジア研究』 15(1), 1977.
- (7) 『日本経済のモデル分析』 創文社, 1977.
- (8) "Growth Accounting of Postwar Japan: The Input Side," 『季刊理論経済学』 29(3), 1978.
- (9) "Linking National Econometric Models of Japan, U.S.A. and the East and Southeast Asian Countries—A Pilot Study," 『東南アジア研究』 17(2), 1979.
- (10) 「フィリピン経済の成長の社会会計」渡部忠世(編) 『東南アジア世界——地域像の検証』 創文社, 1980.
- (11) "The Bank of Thailand Model and its Application to Policy Simulations," 『東南アジア研究』 18(1), 1980.
- (12) 「東南アジア輸出成長の諸要因——需要サイドからの計量分析(1967—76年)」 『東南アジア研究』 19(3), 1981.
- (13) "An Econometric Model of Indonesia with Particular Reference to the Monetary Sector: 1970-1980," 『東南アジア研究』 21(2), 1983.
- (14) "An Econometric Link System for the East and Southeast Asian Countries, Japan and the United States," (共著) 『東南アジア研究』 22(3), 1984.
- (15) 『経済発展論』 (共編著) 創文社, 1985.
- (16) *Econometric Models of Asian Link* (共編著), Springer-Verlag, 1985.
- (17) 「日本経済のCGEモデル」 林・中村(編) 『日本経済と経済統計』 東京大学出版会, 1986.
- (18) "A Computable General Equilibrium Model of the Japanese Economy," *Kobe Economic and Business Review*, No. 32, 1986.
- (19) *Development Planning and Policies in ASEAN Countries* (編著), (科学研究費報告書), 1987.
- (20) 「石油価格・財政金融政策・構造変化のマクロ・インパクト——タイ経済の一般均衡(CG E)分析——」 『東南アジア研究』 25(3), 1987(近刊).

桜井由躬雄

1. 東京大学文学部, 1967.
2. 東京大学文学修士, 1972.
3. 東南アジア史
4. 清仏戦争後の対仏抵抗
5. 1977年, 東南アジア研究センター助手に採用される。1983年, 同助教授に昇任, 現在に至る。
東・東南アジアの土地制度・農業開発・反植民地運動などに関する現地調査・資料収集のため, 1977年タイ(1ヵ月), 1978年タイ他3ヵ国(10ヵ月), 1980~81年インドネシア他2ヵ国(2ヵ月), 1982年インド・スリランカ(3ヵ月), 1983年フランス(2ヵ月), 1985~87年ベトナム(2年)などに赴いた。
6. (1) 「永盛均田例の周辺」 『東洋学報』 56(2・3・4), 1975.
(2) 「ヴェトナム中世社数の研究」 『東南ア

- ジア——歴史と文化』5, 1975.
- (3) 「永盛均田例の研究」『史学雑誌』85(7), 1976.
- (4) 「19世紀初期ヴェトナム村落内土地占有状況の分析——嘉隆4年山南下鎮地簿を中心として」『東南アジア——歴史と文化』6, 1976.
- (5) 「嘉隆均田例の分析」『東南アジア研究』14(4), 1977.
- (6) 『東南アジア現代史Ⅲ ヴェトナム・カンボジア・ラオス』(共著) 山川出版社, 1977.
- (7) 「19世紀初期ヴェトナム村落内土地占有状況の分析再論」『東南アジア——歴史と文化』7, 1977.
- (8) 「黎朝下ヴェトナム村落における漂散農民の分析(Ⅰ)」上・下, 『東南アジア研究』15(4);16(1), 1978.
- (9) 「雑田問題の整理——古代紅河デルタ開拓試論」『東南アジア研究』17(1), 1979.
- (10) 「10世紀紅河デルタ開拓試論」『東南アジア研究』17(4), 1980.
- (11) 「李朝期(1010—1225)紅河デルタ開拓試論——デルタ開拓における農学的適応の終末」『東南アジア研究』18(2), 1980.
- (12) 「明命均田例の周辺」『東洋史研究』39(3), 1980.
- (13) 「糧田制の研究——19世紀ヴェトナムにおける兵士職田の成立」『南方文化』8, 1981.
- (14) 「18世紀および19世紀初期紅河デルタにおける流散村落の研究」『東南アジア研究』20(2), 1982.
- (15) 『中国江南の稲作文化——その学際的研究』(共編) 日本放送出版協会, 1984.
- (16) 「ベトナム(近・現代)」島田虔次他(編) 『アジア歴史研究入門 5』 同朋舎, 1984.
- (17) 『東南アジア世界の形成』(共著) 講談社, 1985.
- (18) “Number of Villages(Xa) in Medieval Viet Nam,” *Social Science*, V, Hanoi, 1986.
- (19) 「紅河デルタの開拓」渡部忠世・高谷好一(共編) 『稲のアジア史』第2巻, 小学館, 1987.
- (20) 『ベトナム村落の形成』創文社, 1987.

五十嵐忠孝

1. 東京大学医学部, 1970.
2. 東京大学保健学修士, 1972.
3. 人類生態学
4. (1) 小人口学
(2) 栄養と生業機構
5. 1975年, 東京大学医学部保健学科助手に採用される。1982年, 群馬大学医学部助教授に昇任, 1984年, 東南アジア研究センターに配置換となり, 現在に至る。
1970~73年, トカラ列島でヒトの個体群生態学的調査, 1974~75年, 韓国の一農村で人口移動の調査, 1978年以降, インドネシア西ジャワ州のスンダ人村落で小人口学, 栄養と生業機構に関する調査などに従事する。
6. (1) “Change in Daily Activity Patterns during the Ramadan in an Islamic Society,” *Proceedings of the Second International Symposium on Asian Studies, 1980*, Vol. II, Asian Research Service, Hong Kong, 1981.
(2) 「個人年齢の推定方法に関する若干の覚え書き——西部ジャワ・スンダ人村落での調査から」『東南アジア研究』20(2), 1982.
(3) “Seeking the Dates of Birth of Children: An Age-Estimation Method that Combines Dental Age with Indigenously Expressed “Time of Birth” for Use in Priangan, West Java,” *Proceedings of the Fourth International Symposium on Asian Studies, 1982*, Vol. III, Asian Research Service, Hong

Kong, 1983.

- (4) 「漁撈と農耕の比較生態——西部ジャワ・ブリアガン地方での調査から」大塚柳太郎(編)『生態人類学』至文堂, 1983.
- (5) "Locality-Finding in Relation to Fishing Activity at Sea," in Béla Gunda (ed.), *The Fishing Culture of the World: Studies in Ethnology, Cultural Ecology and Folklore*, Akadémiai Kiadó, Budapest, 1984.
- (6) 『インドネシア人類生態学調査集成』(共編)日産科学振興財団, 1984.
- (7) 「西ジャワ・ブリアガン高地における水稲耕作——若干の人類生態学的観察」『農耕の技術』7, 1984.
- (8) 「西ジャワ・ブリアガン高地の食糧資源と人口」小石秀夫・鈴木継美(編)『栄養生態学』恒和出版, 1984.
- (9) 「インドネシアの人口, 出生, 死亡」『医学のあゆみ』132, 1985.
- (10) *Human Ecological Survey in Rural West Java in 1978 to 1982: A Project Report*, (共編著) Nissan Science Foundation, Tokyo, 1985.
- (11) "Some Biosocial Variables That May Account for Fertility Patterns in the Sundanese Society," In *Health Ecological Survey in Indonesia in 1983/84*, Part 1, Department of Public Health, Gunma University, Maebashi, 1985.
- (12) "Biosocial Variables Affecting Sundanese Fertility, West Java," *Man and Culture in Oceania*, 3, 1987.

木之内秀彦

1. 京都大学法学部, 1984.
2. 京都大学法学修士, 1986.
3. 政治学
4. ベトナム戦争
5. 1987年, 東南アジア研究センター助手に採

用され, 現在に至る。

- 6.(1) 「『政治的軍隊』と『非政治的職業軍隊』——フランス革命初期軍隊問題の一考察(1)」『法学論叢』122(1), 1987.

自然系

高谷 好一

1. 京都大学理学部, 1956.
2. 京都大学理学博士, 1963.
3. 自然地理学
4. 東南アジアの自然環境と土地利用
5. 1967年, 東南アジア研究センターに助手として採用され, 同年, 助教授, 1975年教授に昇任。1981年より京都大学大学院農学研究科熱帯農学専攻教授を兼任, 現在に至る。
過去の研究・調査は, すべて自然地理と農業を対象としてきたが, 主な海外調査には次のものがある。1966~67年タイ中央平原, 1968年インド東岸, 1968~69年タイ中央平原, 1970~71年ミシシッピー, アマゾン, ナイル, チグリス・ユーフラテス等のデルタ, 1972年地中海水田地帯, 1973年イラワジ・デルタ, 1974年東北タイ, 1975年ネパール, 1976年ビルマ, 1978年フィリピン, 同年スマトラ, 1980~81年スラウェシ, 1982~83年スリランカ, 1984年スマトラ, 1986~87年マダガスカル。
- 6.(1) 「スマトラの小区画水田」(共著)『農耕の技術』4, 1981.
- (2) 「バンカジェネ河流域の土地利用」『東南アジア研究』20(1), 1982.
- (3) 「南島の稲作とその歴史・生態学的背景」渡部忠世(編)『南西諸島農耕における南方的要素』(科学研究費報告書), 東南アジア研究センター, 1982.
- (4) *Chao Phraya Delta of Thailand; Asian Rice-Land Inventory: A Descriptive Atlas*, No. 1, CSEAS, Kyoto University, 1982.
- (5) 『熱帯デルタの農業発展』創文社, 1982.

- (6) 「ふたつの小区画水田」『季刊民族学』19, 1982.
- (7) 「南スラウェシのサゴ生産」『東南アジア研究』21(2), 1983.
- (8) "Agricultural Transformation in Maningamuwa, a Village in Dry-zone Sri Lanka," (共著)『東南アジア研究』22(2), 1984.
- (9) 「サゴヤシ湿地の生活」『グリーン・パワー』12, 1984.
- (10) 「東南アジアの自然」大林太良(編)『東南アジアの民族と歴史』山川出版社, 1984.
- (11) 「南島」の農業基盤」渡部忠世・生田滋(編)『南島の稲作文化』法政大学出版局, 1984.
- (12) "Geomorphology, Hydrology and Rice Cultivation in the Chao Phraya Delta of Thailand," *JARQ*, 18(3), 1985.
- (13) 『東南アジアの自然と土地利用』勁草書房, 1985.
- (14) 「東南アジアの生態史的枠組」石井米雄(編)『東南アジア世界の構造と変容』創文社, 1986.
- (15) 「水田が拓かれるとき」佐原真(編)『豊饒の大地』集英社, 1986.
- (16) "Sago Production at Desa Tanjung, Riau, Sumatra," *Proceedings of 3rd Sago Symposium*, Tokyo, 1986.
- (17) 「熱帯多雨林沿岸部の生活」『東南アジア研究』24(3), 1986.
- (18) 「アジア稲作の生態構造」渡部忠世・福井捷朗(共編)『稲のアジア史』第1巻, 小学館, 1987.
- (19) 「東南アジア大陸部の稲作」渡部忠世・高谷好一(共編)『稲のアジア史』第2巻, 小学館, 1987.
- (20) *Agricultural Development of a Tropical Delta*, University of Hawaii Press, Honolulu, 1987.

海田 能宏

1. 京都大学農学部, 1962.
2. 京都大学農学博士, 1970.
3. 熱帯農業水文学
- 4.(1) 農業発展の水文環境的基盤
(2) アジア農村開発論
5. 1967年, 京都大学助手(農学部)に採用され, 1969年, 東南アジア研究センターへ配置換え。1974年同助教授, 1984年同教授に昇任。同年から京都大学大学院農学研究科熱帯農学専攻教授を兼任。
1969年以降, 水文環境, 農業水利, 農業生態, 農村開発などに関する現地調査をつづけており, それらは, 1969~70年タイ(約10ヵ月), 1973年ビルマ(1ヵ月), 1973年タイ・インドネシア(2ヵ月), 1974年ベトナム・メコンデルタ(2回3ヵ月), 1978年インドネシアの南スマトラ(2ヵ月), 1979年フィリピンのルソン平野(2ヵ月), 1980年フィリピンのルソン平野など(1ヵ月), 1980, 81年タイ(2回2ヵ月), 1981年東北タイ村落定着調査(5ヵ月), 1983~84年再び東北タイ村落定着(13ヵ月), 1985年以来バングラデシュ農業・農村開発基礎調査(5回計4ヵ月)などである。また, 1971~72年アメリカ合衆国カリフォルニア大学(リバーサイド校)にて水資源計画学の研修(約13ヵ月), 1974~77年の3年間は国連メコン委員会において, メコン河流域の水資源と農業開発計画に関する調査・研究に従事した。
- 6.(1) 「かんがい排水の現状と展望」石井米雄(編)『タイ国, ひとつの稲作社会』創文社, 1974.
(2) "Pioneer Settlement and Water Control Development in the West Bank Tract of the Lower Chao Phraya Delta—Water Conditions in the Deltaic Lowland Rice Fields (II),"『東南アジア研究』11(3), 1974.

- (3) "Hydrography of Rice Land in the Vietnamese Part of the Mekong Delta," 『東南アジア研究』 12(2), 1974.
- (4) 「メコンデルタ稲作農業の自然環境とデルタの開発構図」 『東南アジア研究』 13(1), 1975.
- (5) "Agro-hydrologic Regions of the Chao Phraya Delta," in S. Ichimura (ed.), *Southeast Asia: Nature, Society and Development*, University Press of Hawaii, Honolulu, 1977.
- (6) *Pa Mong Downstream Effects on Hydrology and Agriculture in the Democratic Kampuchea—Pa Mong Optimization and Downstream Effects Study*, Working Paper No. 6, Report of Mekong Secretariat, MKG 41, 1976.
- (7) *Pa Mong Optimization and Downstream Effects Study, Main Report*, Report of Mekong Secretariat, MKG 45, Rev. 1, 1978.
- (8) "Effect of Mekong Mainstream Flood Regulation on Hydrology and Agriculture in the Cambodian Lowland (I): Rice Culture," 『東南アジア研究』 16(4), 1979.
- (9) 「メコンをデザインする」 松田松二 (編) 『自然とむすぶ文化』 共立出版, 1980.
- (10) 「熱帯アジアの伝統的農業水利技術」 『農業土木学会誌』 51(1), 1983.
- (11) *A Rice-Growing Village Revisited: An Integrated Study of Rural Development in Northeast Thailand* (An Interim Report), (共編著) CSEAS, Kyoto Univ., 1983.
- (12) 『淀川農業水利史』 農林水産省近畿農政局淀川水系農業水利調査事務所 (編), 農業土木学会, 1983.
- (13) "Climate and Agricultural Land Use in Thailand," in M. M. Yoshino (ed.), *Climate and Agricultural Land Use in Monsoon Asia*, University of Tokyo Press, 1984.
- (14) *Chiang Mai-Lamphun Valley, Thailand; Asian Rice-Land Inventory: A Descriptive Atlas*, No. 2, CSEAS, Kyoto Univ., 1984.
- (15) *A Rice-Growing Village Revisited: An Integrated Study of Rural Development in Northeast Thailand* (The Second Interim Report), (共編著) CSEAS, Kyoto Univ., 1985.
- (16) "Hydrology of Rice Land," in *Soil Problems in Rice Based Cropping Systems*, International Rice Research Institute, 1985.
- (17) 「東北タイ・ドンデーン村：村のたたずまい」 (共著) 「東北タイ・ドンデーン村：稲作の不安定性」 (共著) 『東南アジア研究』 23(3), 1985.
- (18) 「東北タイの開拓空間の形成」 石井米雄 (編) 『東南アジア世界の構造と変容』 創文社, 1986.
- (19) 「水文と水利の生態」 渡部忠世・福井捷朗 (共編) 『稲のアジア史』 第1巻, 小学館, 1987.

福井 捷朗

1. 京都大学農学部, 1961.
2. 京都大学農学博士, 1974.
3. 農業生態
4. (1) 東北タイ, ドンデーン村の学際的総合研究
(2) 気候変動と農業
5. 1964~69年, タイ国カセサート大学及び農務省米穀局にて稲作を研究。1967年, 京都大学東南アジア研究センター助手に採用される。1969年同農学部助手, 1974年同東南アジア研究センター助手。1975年同助教授, 1987年同教授に昇任, 現在に至る。1982年より京都大学大学院農学研究科熱帯農学専攻助教

授, 1987年同教授を兼任。

1972年タイ及びジャワ, 1974年メコンデルタ, 1976年イラワディデルタ及びサラワク, 1977年西マレーシア, 1979年スマトラ及びビルソン島, 1979年, 1980年タイにおいて, それぞれ数ヶ月の現地調査に従事する。1975年, オランダ農科大学にて研究。1981~82年及び1983年, 東北タイ村落定着調査に従事する。

- 6.(1) 「水稻高収性品種の普及と栽培環境」市村真一(編)『東南アジアの自然・社会・経済』創文社, 1974.
- (2) 「気候変動と湿潤熱帯の農業」『科学』49(3), 1979.
- (3) 「サラワク低地の土地利用と未利用」『東南アジア研究』17(4), 1980.
- (4) 「火耕水耨の論議によせて」『農耕の技術』3, 1980.
- (5) 「アジア稲作圏にはなぜ畑作が少ないのか」『国際農林業協力』5(3), 1982.
- (6) "Variability of Rice Production in Tropical Asia," in *Drought Resistance in Crops with Emphasis on Rice*, International Rice Research Institute, 1982.
- (7) "Ch. 9. Present Situation of Upland Farming in Thailand" and "Ch. 10. General Discussion and Conclusion," in K. Kyuma *et al.* (eds.), *Shifting Cultivation*, 1983.
- (8) 「東南アジア低湿地の土地利用」『東南アジア研究』21(4), 1984.
- (9) *A Rice-Growing Village Revisited: An Integrated Study of Rural Development in Northeast Thailand* (An Interim Report), (共編著) CSEAS, Kyoto Univ., 1983.
- (10) *A Rice-Growing Village Revisited: An Integrated Study of Rural Development in Northeast Thailand* (The Second Interim Report), (共編著) CSEAS, Kyoto Univ., 1985.
- (11) 「技術とエコロジー—適応のかたち—」

渡部忠世・福井捷朗(共編)『稲のアジア史』第1巻, 小学館, 1987.

古川 久雄

1. 京都大学農学部, 1963.
2. 京都大学農学博士, 1973.
3. 熱帯稲作地理
- 4.(1) 東南アジア低湿地の利用と保全
(2) アジア伝統農業の生態構造
(3) 熱帯土壌生成
5. 1967年, 京都大学農学部助手に採用される。1978年, 東南アジア研究センター助教授に昇任, 現在に至る。1981年より京都大学大学院農学研究科熱帯農学専攻助教授を兼任。
1963年以降, 以下の諸国にて水田土壌の調査を行う; 1963~64年, タイ, 1964~65年, タイ, マレーシア, 1970年, インドネシア(ジャワ), 1978年, 韓国。さらに, 1978年, 南スマトラ, 1979年, ジャワ島, 1980~81年, 南スラウェシ, 1983年, スマトラ東岸低湿地帯, 1984年, リアウなど, インドネシア各地で農業景観の変貌等について調査に従事。1981~82年にはIRR Iにて, カガヤン溪谷における多毛作化の調査を行う。また, 1982年には南インド, スリランカでも農業景観の変貌について調査を実施した。
- 6.(1) 「ジャワ島土壌の物理性——殊に硬盤について」『土壌の物理性』25, 1971.
(2) 「水田土壌コンシステンシーの一局」『近代農業における土壌肥料の研究』3, 1972.
(3) 「安満遺跡土層断面の土壌学的検討」『安満遺跡』京都大学文学部, 1973.
(4) 「ニューアイルランド島における土壌地理的観察」『東南アジア研究』11(4), 1974.
(5) 「近畿地方低地部における土壌の分布則および分布単位に関する事例研究」『ベドロジスト』20, 1976.
(6) "Chemical, Mineralogical and Micro-

- Morphological Properties of Glaebules in Some Tropical Lowland Soils,"(共著)『東南アジア研究』14(3),1976.
- (7) 『カラーズライド集・日本の土壌』(共著)農山漁村文化協会,1977.
- (8) "Geochemical Study of the Redistribution of Elements in Soil. Part 1. Evaluation of Degree of Weathering of Transported Soil Material by Distribution of Major Elements among the Particle Size Fraction and Soil Extracts,"(共著) *Geochimica Cosmochimica Acta*, 41, 1977.
- (9) 「土壌中主要12元素の蛍光X線迅速定量法」『日本土壌肥料学会』49(2),1978.
- (10) "Computer-Based Soil Data Management System(CGSMAS). I, II,"(共著) *Soil Sci. Plant Nutr.*, 27(4),1981.
- (11) 「南スラウェシの稲作景観」『東南アジア研究』20(1),1982.
- (12) 「ルソン島の陸稲栽培」『農耕の技術』5, 1983.
- (13) 「踏耕の系譜」(共著)渡部忠世(編)『南西諸島農耕における南方の要素』(科学研究費報告書), 東南アジア研究センター, 1982.
- (14) "Land Use and Soil Catena in Jenepono Area of South Sulawesi,"『東南アジア研究』20(4),1983.
- (15) 「フィリピンでの農業と農民」『国際農林業協力』6(2),1983.
- (16) 「愛知川扇状地の土壌層序」I, II (共著)『ベドロジスト』27, 1983; 29, 1985.
- (17) 「東南アジア低湿地の地形」『東南アジア研究』21(4),1984.
- (18) 「バタンハリ川流域低湿地の農業景観 I. 地形と層序」(共著)「同 II. 農業景観の展開」『東南アジア研究』23(1),1985; 24(1),1986.
- (19) "A Study of Floral Composition of Peat Soil in the Lower Batang Hari River Basin of Jambi, Sumatra,"(共著)『東南アジア研究』24(2),1986.
- (20) 「マダガスカルの伝統農業と変革への展望」『国際農林業協力』9(4),1987.

田中 耕司

1. 京都大学農学部, 1969.
 2. 京都大学農学修士, 1972.
 3. 作物学
 - 4.(1) 熱帯アジアにおける水田・畑の伝統的作物付体系
 - (2) インドネシアの移住民の農業適応
 5. 1973年, 京都大学農学部助手に採用される。1979年, 東南アジア研究センター助手に配置換え, 1984年, 助教授に昇任, 現在に至る。
- この間, 1974年, ビルマにおいて栽培稲の変遷の調査, 1978~79年, ビルマ, アッサムにおいて野生イネの分布と栽培イネの生態型分化の調査に従事。1979年, インド, スリランカにおいてクロッピングシステム, 作物生産, 食糧構造の比較研究調査を行う。1980~85年にかけて3次わたり, インドネシアにおいて熱帯島嶼域の人の移動に関わる環境形成過程の研究調査に参加, 1986年以降, パングラデシュ, マダガスカルでも調査を行う。
- 6.(1) 「ビルマ中央平原の作物分布」『東南アジア研究』14(2),1976.
 - (2) "Relation between Root Oxidizing Power and Resistance to Iron Toxicity in Rice,"(共著)『近畿作物・育種談話会報』21, 1977.
 - (3) 『日本農書全集 第7巻』(校注, 現代語訳, 解題)農山漁村文化協会, 1979.
 - (4) 「伝統稲作の生態的適応——ビルマの乾季稲作の諸例」(共著)渡部忠世(編)『東南アジア世界』創文社, 1980.
 - (5) 「ビルマにおける栽培稲の変遷と稲作の展開」(共著)『東南アジア研究』19(2),

- 1981.
- (6) “Traditional Cropping Systems of Small Farmers in the Central and Southern Decan Plateau Area,” (共著) 『東南アジア研究』 19(2), 1981.
- (7) “Agricultural Adaptation by Spontaneous Migrants to Northern Kabupaten Luwu,” in Mattulada and N. Maeda(eds.), *Villages and Agricultural Landscape in South Sulawesi*, CSEAS, Kyoto Univ., 1982.
- (8) 「ビルマの農業と農民」『国際農林業協力』 5(1), 1982.
- (9) 「南スラウェシ州ルウ県北部への人の移動と水田農耕の技術変容」『東南アジア研究』 20(1), 1982.
- (10) 「踏耕の系譜」(共著) 渡部忠世(編)『南西諸島農耕における南方的要素』(科学研究費報告書), 東南アジア研究センター, 1982.
- (11) “Potential Productivity of Rice in the Low-Country Wet Zone of Sri-Lanka,” (共著) *JARQ*, 17(2), 1983.
- (12) 「与那国島の水田立地と稲作技術——東南アジア島嶼部稲作との関連において」『東南アジア研究』 21(3), 1983.
- (13) “Agricultural Adaptation among Bugis Spontaneous Migrants—A Case Study in Northeastern Kabupaten Luwu,” in N. Maeda and Mattulada(eds.), *Transformation of the Agricultural Landscape in Indonesia*, CSEAS, Kyoto Univ., 1984.
- (14) 「ジャワの耕地利用と食用作物栽培」栗原浩教授定年退官記念出版会(編)『耕地利用と作付体系』大明堂, 1984.
- (15) 「東南アジア島嶼部の環境と農業適応——開拓地入植者にみる適応のかたち——」石井米雄(編)『東南アジア世界の構造と変容』創文社, 1985.
- (16) 「杵と臼の文化史」大林太良他(編)『田園祝祭さと』旺文社, 1986.
- (17) “Bugis and Javanese Peasants in the Coastal Lowland of the Province of Riau, Sumatra: Differences in Agricultural Adaptation,” in T. Kato *et al.* (eds.), *Environment, Agriculture and Society in the Malay World*, CSEAS, Kyoto Univ., 1986.
- (18) 「稲作技術の類型と分布」渡部忠世・福井捷朗(共編)『稲のアジア史』第1巻, 小学館, 1987.
- (19) 「近世における集約稲作の形成」渡部忠世・田中耕司(共編)『稲のアジア史』第3巻, 小学館, 1987.
- (20) 「熱帯降雨林気候下の農民農業——東南アジアの場合」『熱帯農業』 31(2), 1987.

内田 晴夫

1. 京都大学農学部, 1978.
2. 京都大学農学博士, 1986.
3. 灌漑排水学
4. (1) バングラデシュ農業開発史
(2) バングラデシュの農業水文
(3) バングラデシュにおける水稲作生産量の変動解析
5. 1982年, 東南アジア研究センター助手に採用され, 現在に至る。灌漑排水学の分野において, 地形起伏のシミュレーションに関する基礎的研究(博士論文)をまとめた。研究対象地域としてベンガルデルタ(バングラデシュ)を選び, 1984年10月からは, バングラデシュ稲研究所客員研究員として滞在するかたわら, 水文環境や灌漑排水方式, 水資源開発方式等, 農業と水問題とのかかわりに関する現地調査を行なった。現在, バングラデシュ内陸低湿地(ハオール)農村で, 数度にわたる定着調査を実施中である。
6. (1) 「タイ国における水稲生産量の変動に関する自然的要因の分析」『農業土木学会

誌』49(5), 1981.

- (2) 「二次元空間系列を対象とした地形起伏のシミュレーションに関する基礎的研究」『農業土木学会論文集』112, 1984.
- (3) 「三次元空間系列を対象とした地形起伏のシミュレーションに関する基礎的研究」『農業土木学会論文集』114, 1984.
- (4) 「都市化流域における有効降雨の算定——京都市竹田川流域を対象として」『農業土木学会誌』52(12), 1984.
- (5) “Analysis of Rice Production Variability in Bangladesh,” *Journal of Irrigation Engineering and Rural Planning* No.10, 1986.

河野 泰之

1. 東京大学農学部, 1981.
2. 東京大学農学博士, 1986.
3. 土地・水利用
4. (1) 天水田から灌漑田への展開過程
(2) タイの農業生態
(3) 天水田水稲作の水文環境
5. 1987年東南アジア研究センター助手に採用され、現在に至る。1981年ジャワ島において水源補強と末端水路整備の効果と影響の調査, 1983~84年タイにおいて天水田地域の土地・水利用の調査, スリランカ及び南インドにおいてため池灌漑田地域の土地・水利用の調査, 1986年ルソン島において天水田と灌漑田の水文環境の比較調査に従事する。
6. (1) 「熱帯農業開発における水田の意義」『農業土木学会誌』51(1), 1983.
(2) “Ch. 6 Land and Water/Hydrography” and “Ch. 8. Agriculture-Environment Interaction/Water Stress and Rice Production” in H. Fukui *et al.* (eds.), *A Rice-Growing Village Revisited: An Integrated Study of Rural Development in Northeast Thailand* (The Second Interim Report),

CSEAS, Kyoto Univ., 1985.

- (3) 「東北タイ・ドンデーン村：稲作の不安定性」『東南アジア研究』23(3), 1985.
- (4) 「熱帯モンスーン地域の天水田の農業基盤の研究」東京大学博士論文, 1985.
- (5) 「タイ国東北部の天水田の水文環境と水利開発」『拓殖学研究』26, 1986.
- (6) 「天水田における土地改良事業の経済効果」『農業土木学会誌』55(9), 1987.

客員教官

吉川 利治

1. 大阪外国語大学タイ語学科, 1963.
2. 大阪外国語大学文学士.
3. タイ族史
4. (1) タイにおける都市と国家の形成史
(2) 日タイ交渉史
5. 1964年, 大阪外国語大学タイ語学科助手に採用され, 1985年, 同大学教授に昇任, 現在に至る。この間, タイ国チャラーロンコーン大学, タマサート大学日本語講師, 関西大学非常勤講師として講義を担当する。1982~83年, 東南アジア研究センター併任助教授, および1987年より現在まで同じく併任教授を兼ねる。
1979~80年にかけて, 2次にわたりタイにて日本の南方関与に関する現地調査に従事。1982年, タイにて東南アジアの国家形成に関する現地調査に従事。1981~82年にかけて, 2次にわたり日・タイ交渉史に関する現地調査に従事。
6. (1) 『タイの昔話』(共訳) 三弥井書店, 1976.
(2) 「タイの伝統文化と精神構造」『タイ経済と投資環境』アジア経済研究所, 1976.
(3) 「ラオスの伝統的統治体系」『東南アジア——歴史と文化』7, 1977.
(4) 『『アジア主義』者のタイ国進出——明

- 治中期の一局面——』『東南アジア研究』16(1), 1978.
- (5) 「タイ・ラオスの狡智譚——シータノンチャイの祖型と精神——』『世界口承文芸研究』1, 大阪外国語大学, 1979.
- (6) 「スコタイ王朝の王統に関する新しい見解について』『東南アジア——歴史と文化』9, 1980.
- (7) 「暹羅国蚕業顧問技師——明治期の東南アジア技術援助』『東南アジア研究』18(3), 1980.
- (8) 「ラオス・東北タイの慣習法に見られる仏教戒律』『戒律思想の研究』平楽寺書店, 1981.
- (9) 「タイ族の羽衣説話』『世界口承文芸研究』2, 1981.
- (10) 「タイ国ビブーン政権と太平洋戦争』『東南アジア研究』19(4), 1982.
- (11) *Phuchiao chan dan kanphlitmai chaoyipun nai ratchasamai phrabatsomdet phra-cunlachomklaochaoyuhua*, Mahawitthayalai Thammasat, 1982.
- (12) 「東北タイ及びラオスの古代法——Kot-mai Khosarat を中心に——』『国立民族学博物館研究報告』8(1), 1983.
- (13) "Krungthep: Sunruam puchaniyawatthu khong chat thai," in "States" in Southeast Asia—from "Tradition" to "Modernity", CSEAS, Kyoto Univ., 1984.
- (14) 「バンコクにおける神仏像の蒐集・創出と誓忠儀式——国家統合の精神的局面』『東南アジアのくくに』概念の成立と展開に関する比較研究』東南アジア研究センター, 1985.
- (15) 「いたずら者のパオロー, タイ・ラオス・ベトナムのむかし話』(共編訳) 小峰書店, 1986.
- (16) 『東南アジア大陸の言語』(共著) 大学書林, 1987.
- (17) 『日・タイ交流六〇〇年史』(共著) 講談社, 1987.
- (18) *Khwam Samphan Thai-Jipun 600 Pi*, Mulanithi Khrongkan Tamra, 1987.

野間 晴雄

1. 京都大学文学部, 1977.
2. 京都大学文学修士, 1979.
3. 人文地理学
4. (1) ベンガルデルタ開発史
(2) 東北タイ農村の生活行動分析
(3) 日本の低湿地開発の比較研究
5. 1979年に修士論文として新潟平野の歴史的開発を扱って以来, 日本・東南アジアのデルタの比較研究を主要テーマとする。1979年, 奈良大学文学部助手, 1982年滋賀大学教育学部講師, 1983年助教授, 現在に至る。1987年度, 東南アジア研究センター併任助教授。
その間, 東北タイ・バングラデシュで現地調査に従事する。
6. (1) 「野生ユリの栽培化から球根商品化への過程——鹿児島県甕島と沖永良部島の比較』『人文地理』30(3), 1978.
(2) 「蒲原平野における小農の湿地農耕技術——西蒲原郡遠藤のモノグラフから』『奈良大学紀要』8, 1979.
(3) 「稲作技術からみた蒲原平野の開発過程』『農耕の技術』3, 1980.
(4) 「東北タイ農村の食生活と食事文化』『奈良大学紀要』11, 1982.
(5) 「考古地理学と生物—植物(Ⅱ)」藤岡謙二郎(編)『講座考古地理学1』学生社, 1982.
(6) 「北陸・東山・東海の稲作経営」大明堂編集部(編)『新日本地誌ゼミナール中部地方』大明堂, 1983.
(7) 『改訂新庄町史』(共著), 奈良県新庄町, 1984.

- (8) 「有明海の干拓」藤岡謙二郎(編)『講座考古地理学4』学生社, 1985.
- (9) 「東北タイ・ドンデーン村:生活行動記録(第一報)」(共著)『東南アジア研究』23(3), 1985.
- (10) 「甲賀郡野洲川・柚川流域の条里型地割に関する若干の考察——条里縁辺地域の地形・水利条件との関連を中心にして」『滋賀大学教育学部研究紀要』35, 1985.
- (11) 「ヴァイベルと二元論——熱帯地域研究からの帰納」水津一朗先生退官記念事業会(編)『人文地理学の視園』大明堂, 1986.
- (12) 「湖北蚕糸業の盛衰と邦楽器糸製造業に関する地域社会史論」『滋賀大学教育学部研究紀要』36, 1986.
- (13) 「『疏導要書』にみる佐賀藩の治水と利水」『歴史地理学会紀要』29, 1987.
- (14) 「マキノ町扇状地群の開発と土地利用——百瀬川・石庭・牧野扇状地の比較地誌」『滋賀大学教育学部研究紀要』37, 1987.

(2) 資料部

北野 康子

1. 長崎大学教育学部, 1962.
2. ハワイ大学 M. L. S., 1971.
3. 図書館学
4. (1) 東南アジア研究資料の目録情報
(2) ライブラリー・オートメーション
5. 1966~68年, East-West Center 奨学生, 1969~71年, ハワイ大学大学院にて図書館学を修める。1971~77年, 貿易研修センター情報資料室勤務を経て, 1977年, 東南アジア研究センター資料部図書室に助手として着任, 現在に至る。
6. (1) *The Bibliography of Bibliographies of the Pacific*, Graduate School of Library Studies, University of Hawaii, Honolulu, 1969.
- (2) *United Nations Documents on the Trust Territory of the Pacific Islands*, Graduate School of Library Studies, University of Hawaii, Honolulu, 1971.
- (3) 「発展途上国の経済ナショナルリズムと経済統合に関する文献目録」(共編)『アジア経済資料月報』20(3), 1978.
- (4) *Women in Southeast Asia: A*

Bibliography, for the National Women's Education Center, Japan, Kyoto, 1979.

- (5) 「図書館ネットワークのしくみ: WLNのシステム, Washington Library Network」(共編)ライブラリー・オートメーション研究会, 京都, 1982.
- (6) 「インドネシアにおける図書館システム」(訳)『図書館界』35(4), 1983.
- (7) *Southeast Asian Research Resources in Western Japan, Presented at the Seventh Congress of Southeast Asian Librarians, Manila, 15-21 February 1987.*

柴山 守

1. 立命館大学理工学部, 1970.
2. 立命館大学工学士.
3. 情報工学
4. (1) 言語情報処理
(2) 計算機システム性能評価
5. 1970年, 京都大学大型計算機センターに文部技官として採用される。1976年より同センター研究開発部兼務となり, 日本国内大学間コンピュータ・ネットワークおよび計算機システムの性能評価に関する研究・開発に従事する。システム運用掛長, システム管理掛長

を経て、1982年、東南アジア研究センター資料部計算機室に助手として着任、現在に至る。この間、1984年に京都産業大学計算機科学研究所、1985年に大阪産業大学経営学部の非常勤講師として講義を担当する。また、1984年、85年の2次にわたり、インドネシア国家開発庁のコンピュータ・プログラム整備のためインドネシアに派遣される。

6. (1) 「OS カタログへのアクセスの解析と効率改善について」『情報処理学会論文誌』22(2), 1981.
- (2) 「ディスク・キャッシュの効果に関する一考察」電子通信学会 電子計算機研究会, EC 81-5, 1981.
- (3) 「大容量記憶システムの利用特性と動作解析」情報処理学会 計算機システムの解析と制御研究会, 1981.
- (4) 『P L / I 基礎編』(共著) コロナ社, 1982.
- (5) 「M S S を用いた情報検索の応答時間の解析」『情報処理学会論文誌』24(5), 1983.
- (6) “An Econometric Link System for the East and Southeast Asian Countries, Japan and the United States,”『東南アジア研究』

22(3), 1984.

- (7) 『P L / I 応用編』(共著) コロナ社, 1985.

米沢真理子

1. 京都大学文学部, 1972.
2. 京都大学文学修士, 1974.
5. 1974年, 京都大学東南アジア研究センターに文部事務官として採用される。1987年, 東南アジア研究センター資料部編集室助手に配置換え, 現在に至る。
6. (1) 「バスカルにおけるキリスト教弁証論の方法」, (京都大学修士論文), 1974.

永田 好克

1. 京都大学工学部, 1985.
2. 京都大学工学修士, . 1987
3. 言語情報処理
4. (1) 自然言語入出力インターフェイス
(2) 言語情報データベース
5. 1987年, 富士写真フイルム株式会社入社。1988年, 東南アジア研究センター助手として採用され現在に至る。
6. (1) 「日本語論説文に現れる照応表現の処理」情報処理学会第34回全国大会, 1987.

第5章 出版目録

1897年10月現在で、センターが刊行した東南アジア研究叢書（和文，英文），研究報告書シリーズ，『東南アジア研究』特集タイトル，リプリント・シリーズ，ディスカッション・ペーパーの一覧を掲げる。なお，前述したように，『東南アジア研究』第1号以降23巻4号までの全所収論文等は総目録として『東南アジア研究』別冊（23巻5号）に一括掲載されているので，参照されたい。

1. 東南アジア研究叢書

A. 和文叢書

- | | |
|-------------------|---|
| 1. 棚瀬 襄爾. | 1966. 『他界観念の原始形態』 |
| 2. 矢野 暢. | 1968. 『タイ・ビルマ現代政治史研究』 |
| 3. 本岡 武. | 1968. 『東南アジア農業開発論』 |
| 4. 坪内 良博; 坪内 玲子. | 1971. 『離婚』 創文社. |
| 5. 飯島 茂. | 1971. 『カレン族の社会・文化変容』 創文社. |
| 6. シュトルツ. | 1974. 『ビルマ地誌・歴史・経済』 野上裕生（訳）. 創文社. |
| 7. 市村 真一 編. | 1974. 『東南アジアの自然・社会・経済』 創文社. |
| 8. 石井 米雄 編. | 1975. 『タイ国一ひとつの稲作社会』 創文社. |
| 9. 石井 米雄. | 1975. 『上座部仏教の政治社会学』 創文社. |
| 10. 本岡 武. | 1975. 『インドネシアの米』 創文社. |
| 11. 市村 真一 編. | 1975. 『東南アジアの経済発展』 創文社. |
| 12. 口羽; 坪内; 前田 編. | 1976. 『マレー農村の研究』 創文社. |
| 13. 西原 正 編. | 1976. 『東南アジアの政治的腐敗』 創文社. |
| 14. エクスタインほか 編. | 1979. 『中国の経済発展』 市村真一（監訳）. 創文社. |
| 15. 渡部 忠世 編. | 1980. 『東南アジア世界一地域像の検証』 創文社. |
| 16. 水野 浩一. | 1981. 『タイ農村の社会組織』 創文社. |
| 17. 土屋 健治. | 1982. 『インドネシア民族主義研究—タマン・シスワの成立と展開』 創文社. |
| 18. 高谷 好一. | 1982. 『熱帯デルタの農業発展—メナム・デルタの研究』 創文社. |
| 19. 小林 和正. | 1984. 『東南アジアの人口』 創文社. |
| 20. 石井 米雄 編. | 1986. 『東南アジア世界の構造と変容』 創文社. |
| 21. 桜井 由躬雄. | 1987. 『ベトナム村落の形成—村落共有田＝ゴンディエン制の史的展開』 創文社. |

B. 英文叢書

1. SATO, Takashi. 1966. *Field Crops in Thailand*. Kyoto: CSEAS.
2. WATABE, Tadayo. 1967. *Glutinous Rice in Northern Thailand*. Kyoto: CSEAS.
3. TAKIMOTO, Kiyoshi, ed. 1968. *Geology and Mineral Resources in Thailand and Malaya*. Kyoto: CSEAS.
4. KAWAGUCHI, Keizaburo; and KYUMA, Kazutake. 1969. *Lowland Rice Soils in Thailand*. Kyoto: CSEAS.
5. KAWAGUCHI, Keizaburo; and KYUMA, Kazutake. 1969. *Lowland Rice Soils in Malaya*. Kyoto: CSEAS.
6. MAEDA, Kiyoshige. 1967. *Alor Janggus, a Chinese Community in Malaya*. Kyoto: CSEAS.
7. ICHIMURA, Shinichi, ed. 1975. *The Economic Development of East and Southeast Asia*. Honolulu: University Press of Hawaii.
8. NISHIHARA, Masashi. 1976. *The Japanese and Sukarno's Indonesia: Tokyo-Jakarta Relation, 1951-66*. Honolulu: University Press of Hawaii.
9. ICHIMURA, Shinichi, ed. 1977. *Southeast Asia: Nature, Society and Development*. Honolulu: University Press of Hawaii.
10. KAWAGUCHI, Keizaburo; and KYUMA, Kazutake. 1977. *Paddy Soils in Tropical Asia*. Honolulu: University Press of Hawaii.
11. YOSHIHARA, Kunio. 1978. *Japanese Investment in Southeast Asia*. Honolulu: University Press of Hawaii.
12. ISHII, Yoneo, ed. 1978. *Thailand: A Rice-Growing Society*. Honolulu: University Press of Hawaii.
13. CHO, Lee-Jay; and KOBAYASHI, Kazumasa, eds. 1980. *Fertility Transition of the East Asian Populations*. Honolulu: University Press of Hawaii.
14. KUCHIBA, Masuo; TSUBOUCHI, Yoshihiro; and MAEDA, Narifumi. 1979. *Three Malay Villages. A Sociology of Paddy Growers in West Malaysia*. Honolulu: University Press of Hawaii.
15. CHO, Lee-Jay; SUHARTO, S.; McNICOLL, G.; and MAMAS, S.G.M. 1980. *Population Growth of Indonesia: An Analysis of Fertility and Mortality Based on the 1971 Population Census*. Honolulu: University Press of Hawaii.
16. ISHII, Yoneo. 1985. *Sangha, State, and Society: Thai Buddhism in History*. Honolulu: University of Hawaii Press.
17. TAKAYA, Yoshikazu. 1987. *Agricultural Development of a Tropical Delta: A Study of the Chao Phraya Delta*. Honolulu: University of Hawaii Press.

2. 研究報告書シリーズ

研究報告書シリーズは、センターが単行本として出版したもので、シンポジウムの報告書、文部省科学研究費補助金による海外学術調査の報告書、その他の研究奨学金を受けて行なった研究の報告書など、各種のものを含んでいる。既刊のものを以下に年度順にあげる。

1. KAWAGUCHI, Keizsaburo, ed. 1965. *Rise Culture in Malaya*, Symposium Series No. 1.
2. INOKI, Masamichi, ed. 1966. *Japan's Future in Southeast Asia*, Symposium Series No. 2.
3. FUJIOKA, Yoshikazu, ed. 1966. *Water Resource Utilization in Southeast Asia*, Symposium Series No. 3.
4. HIGASHI, Noboru, ed. 1968. *Medical Problems in Southeast Asia*, Symposium Series No. 4.
5. 市村 真一編. 1975. 『稲と農民』
6. ICHIMURA, Shinichi, ed. 1977. *Preliminary Report on Role of Education in the Rural Development of Southeast Asia—Thailand and Malaysia—*.
7. ICHIMURA, Shinichi, ed. 1979. *Econometric Models of Asian Countries I*.
8. ICHIMURA, Shinichi; and MIZUNO, Koichi, eds. 1979. *Ecology, New Technology, and Rural Development in Thailand and Malaysia* (with Special Reference to the Role of Education).
9. ICHIMURA, Shinichi, ed. 1980. *Econometric Models of Asian Countries II*.
10. Tsubouchi, Yoshihiro; NASRLIDDIN, Iljas; TAKAYA, Yoshikazu; and RASJID, Hanafiah A., eds. 1980. *South Sumatra, Man and Agriculture*.
11. WATABE, Tadayo, ed. 1981. *Report of the Scientific Survey on Traditional Cropping Systems in Tropical Asia*, Part 1: *India and Sri Lanka*, Part 2: *Indonesia*.
12. MATTULADA; and MAEDA, Narifumi, eds. 1982. *Villages and the Agricultural Landscape in South Sulawesi*.
13. TAKAYA, Yoshikazu; and THIRAMONGKOL, Narong. 1982. *Chao Phraya Delta of Thailand* (Asian Rice-Land Inventory: A Descriptive Atlas, No. 1).
14. 渡部 忠世編. 1982. 『南西諸島農耕における南方的要素』
15. FUKUI, Hayao; KAIDA, Yoshihiro; and KUCHIBA, Masuo, eds. 1983. *A Rice-Growing Village Revisited: An Integrated Study of Rural Development in Northeast Thailand* (An Interim Report).
16. THAN, TUN, ed. 1983. *The Royal Orders of Burma, A.D.1598-1885*, Part One,

A.D.1598-1648.

17. JAYAWARDENA, S.D.G.; and MAEDA, Narifumi, eds.
1984. *Transformation of the Agricultural Landscape in Sri Lanka and South India.*
18. LUMPAOPONG, Bunyawart; PINTHONG, Jitti; CHALOTHON, Chavalit; and KAIDA, Yoshihiro.
1984. *Chiang Mai-Lamphun Valley, Thailand* (Asian Rice-land Inventory: A Descriptive Atlas, No. 2).
19. MATTULADA; and MAEDA, Narifumi, eds.
1984. *Transformation of the Agricultural Landscape in Indonesia.*
20. TSUCHIYA, Kenji, ed. 1984. "States" in Southeast Asia, from "Tradition" to "Modernity."
21. FUKUI, Hayao; KAIDA, Yoshihiro; and KUCHIBA, Masuo, eds.
1985. *A Rice Growing Village Revisited: An Integrated Study of Rural Development in Northeast Thailand* (The Second Interim Report).
22. THAN, TUN, ed. 1985. *The Royal Orders of Burma, A.D.1598-1885*, Part Two, A.D.1649-1750.
23. THAN, TUN, ed. 1985. *The Royal Orders of Burma, A.D.1598-1885*, Part Three, A.D.1751-1781.
24. KATO, Tsuyoshi; MUCHTAR, Lutfi; and MAEDA, Narifumi, eds.
1986. *Environment, Agriculture and Society in the Malay World.*
25. TANAKA, Koji; MATTULADA; and MAEDA, Narifumi, eds.
1986. *Environment, Landuse and Society in Wallacea.*
26. THAN, TUN, ed. 1986. *The Royal Orders of Burma, A.D.1598-1885*, Part Four, A.D.1782-1787.
27. THAN, TUN, ed. 1986. *The Royal Orders of Burma, A.D.1598-1885*, Part Five, A.D.1788-1806.
28. 高谷 好一編. 1986. 『東南アジア伝統農業資料集成』第1巻.
29. 渡部 忠世編. 1986. 『日本農耕文化の展開と系譜—島の視点から』
30. EZAKI, Mitsuo, ed. 1987. *Development Planning and Policies in ASEAN Countries.*
31. THAN, Tun, ed. 1987. *The Royal Orders of Burma, A.D.1598-1885*, Part Six, A.D.1807-1810.
32. 田中 耕司編. 1987. 『東南アジア伝統農業資料集成』第2巻.
33. JAIM, W.M.H. *et al.* 1987. *Review of Literature* (JSARD Working Paper No. 1)
34. HUQ, Muhammad Ammer-UI 1987. *Review of Literature on Planning Studies in Bangladesh* (JSARD Working Paper No. 2)

3. 『東南アジア研究』特集一覧

まとまりのある、いくつかの報文をあつめて、『東南アジア研究』の特集号として出版することがある。この特集号は、シンポジウム、文部省科学研究費補助金による海外学術調査や、その他のまとまりのある共同研究の成果を発表するメディアになっている。『東南アジア研究』創刊以来の特集タイトルを以下に年代順にあげる。

1. 川口桂三郎編. 1965. 『マラヤ稲作シンポジウム』(『東南アジア研究』2(3)特集)
2. 富士岡義一編. 1966. 『水資源利用に関するシンポジウム』(『東南アジア研究』3(4)特集)
3. 東 昇編. 1967. 『東南アジア医学シンポジウム』(『東南アジア研究』4(4)特集)
4. 川口桂三郎編. 1968. 『東南アジア農業技術シンポジウム』(『東南アジア研究』5(4)特集)
5. 相良 惟一編. 1969. 『岩村忍教授退官記念』(『東南アジア研究』6(4)特集)
6. ICHIMURA, Shinichi, ed. 1974. *The Natural Environment and the Socio-economic Behavior of Farmers in Thailand and Java—A Preliminary Summary Report on “Nature and Man Project” of Kyoto University Center for Southeast Asian Studies—*. (『東南アジア研究』12(3)特集)
7. 高谷 好一編. 1975. 『メコンデルタの自然と農業』(『東南アジア研究』13(1)特集)
8. 市村 真一編. 1977. 『本岡武教授退官記念』(『東南アジア研究』15(3)特集)
9. 矢野 暢編. 1978. 『近代日本の南方関与』(『東南アジア研究』16(1)特集)
10. FREDERICKS, M.L.J., ed. 1978. *Proceedings of the Seminar on the Problems of Rice-Growing Villages in Malaysia*. (『東南アジア研究』16(2)特集)
11. 水野 浩一編. 1978. 『タイ特集』(『東南アジア研究』16(3)特集)
12. ICHIMURA, Shinichi, ed. 1979. *Proceedings of the Asian Sub-Link Project Symposium*. (『東南アジア研究』17(2)特集)
13. 市村 真一編. 1979. 『わが国における熱帯農業研究の課題』(『東南アジア研究』17(2)特集)
14. 坪内 良博編. 1979. 『南スマトラ』(『東南アジア研究』17(3)特集)
15. 坪内 良博編. 1979. 『東南アジア低地開拓史』(『東南アジア研究』17(4)特集)′
16. 石井 米雄; 前田 成文編. 1980. 『故水野浩一教授を偲んで』(『東南アジア研究』18(2)特集)
17. 矢野 暢編. 1980. 『近代日本の南方関与(II)』(『東南アジア研究』18(3)特集)
18. ICHIMURA, Shinichi, ed. 1981. *Green Revolution and Rural Development in Asia*. (『東南アジア研究』18(4)特集)
19. 小林 和正編. 1981. 『人口』(『東南アジア研究』19(1)特集)

20. 江崎 光男編. 1981. 『経済特集：貿易・直接投資と経済発展』（『東南アジア研究』19(3)特集）
21. 前田 成文編. 1982. 『南スラウェシの村落と農業景観』（『東南アジア研究』20(1)特集）
22. 坪内 良博編. 1982. 『東南アジアの人口—小林和正教授退官記念』（『東南アジア研究』20(2)特集）
23. 矢野 暢編. 1983. 『東南アジアにおける〈都市〉の諸様相』（『東南アジア研究』21(1)特集）
24. 土屋 健治編. 1984. 『東南アジアの世界像』（『東南アジア研究』22(1)特集）
25. MAEDA, Narifumi, ed. 1984. *Transformation of the Agricultural Landscape*. (『東南アジア研究』22(2)特集)
26. ICHIMURA, Shinichi; and YOSHIHARA, Kunio, eds. 1985. *Japanese Management in Southeast Asia*. (『東南アジア研究』22(4)特集)
27. ICHIMURA, Shinichi; and YOSHIHARA, kunio, eds. 1985. *Japanese Management in Southeast Asia*. (『東南アジア研究』23(1)特集)
28. 奥平 龍二編. 1985. 『19世紀ビルマの英国植民地化過程と社会変容』（『東南アジア研究』23(2)特集）
29. 福井 捷朗編. 1985. 『東北タイ・ドンデーン村』（『東南アジア研究』23(3)特集）
30. 加藤 剛編. 1986. 『インドネシアの都市人類学』（『東南アジア研究』23(4)特集）
31. FURUKAWA, Hisao, ed. 1986. *Problem Soils in Southeast Asia* (『東南アジア研究』24(2)特集)
32. 福井 捷朗；田中 耕司編. 1987. 『熱帯アジアの稲と稲作—渡部忠世教授退官記念』（『東南アジア研究』25(1)特集）
33. 吉原久仁夫；江崎 光男編. 1987. 『東南アジア経済・社会の変容—市村真一教授退官記念』（『東南アジア研究』25(3)特集）

4. リプリント・シリーズ (*印は在庫なし)

社会科学

- S- 1* ICHIMURA, Shinichi. 1968. Postwar Japan in the World Economy. *Japanese Economy*.
- S- 2* 安場 保吉. 1969. 人口研究の意義と方法—経済発展論の立場から—. 『経済史における人口』
- S- 3 FORREST, Matthew; and YOSHIHARA, Kunio. 1969. Japan's Dependence on Exports in contrast with That of Six Other Nations. *Hitotsubashi Journal of Economics* 10(1).

- S- 4* YOSHIHARA, Kunio. 1969. Long-Term Models of the Japanese Economy. *The Economic Studies Quarterly* 20(3).
- S- 5* YOSHIHARA, Kunio. 1969. Demand Functions: An Application to the Japanese Expenditure Pattern. *Econometrica* 37(2).
- S- 6 石井 米雄. 1970. 国家と宗教にかんする一考察—ラーマ1世における仏教の「擁護」—. 『東南アジア研究』7(4).
- S- 7 矢野 暢. 1970. 南タイにおける通婚圏の形成. 『東南アジア研究』7(4).
- S- 8 TSUBOUCHI, Yoshihiro. 1970. Changes in Fertility in Japan by Region: 1920-1965. *Demography* 7(2).
- S- 9* 石井 米雄; 坪内 良博. 1970. タイ国における出家行動の地域的変異についての一考察. 『東南アジア研究』8(1).
- S-10 KATSURA, Makio. 1970. An Outline of the Structure of the Akha Language (Part 1) —Introduction and Phonemics—. 『東南アジア研究』8(1).
- S-11 矢野 暢. 1970. 南タイ農村民の村外居住体験について—タイ・イスラム村落におけるケース・スタディ—. 『東南アジア研究』8(2).
- S-12* ICHIMURA, Shinichi. 1970. The Challenge of the Rising Sun. *Quadrant* 14(6).
- S-13* YASUBA, Yasukichi. 1971. A Revised Index of Industrial Production for Japan, 1905-1935. *Osaka Economic Papers* 19(1/2).
- S-14 矢野 暢. 1971. 南タイ農村の経済生活—タイ・イスラム村落での実態調査—. 『東南アジア研究』8(4).
- S-15 本岡 武. 1971. 東南アジア農業開発研究の方法と問題. 『農業経済研究』42(4).
- S-16 本岡 武. 1971. 東南アジア農業開発と農業教育. 『近代農学論集』
- S-17 YOSHIHARA, Kunio; FURUYA, Kenichi; and SUZUKI, Takao. 1971. The Problem of Accounting for Productivity Change in the Construction Price Index. *Journal of the American Statistical Association* 66(333).
- S-18 ISHII, Yoneo. 1971. Seventeenth Century Japanese Documents about Siam. *Journal of the Siam Society* 59(2).
- S-19 本岡 武. 1971. 農業地理学と発展途上国農業開発—応用地理学の一課題—. 『人文地理学論叢』6月.
- S-20 石井 米雄. 1971. 国家と宗教にかんする一考察(II)—スコタイにおける大寺派上座部仏教の受容をめぐる諸問題—. 『東南アジア研究』9(1).
- S-21 大野 徹. 1971. バガン, ビンヤ, インワ時代のビルマ人仏教徒の功德. 『東南アジア研究』9(1).
- S-22* 水野 浩一. 1971. 家族の周期と村落構造—タイ国東北部の稲作農村—. 『ソシオロジ』17(1/2).
- S-23 本岡 武. 1971. 熱帯農学の教育・研究にかんする国際協力. 『熱帯農業の

- 教育と研究』
- S-24 坪内 良博. 1971. 日本農民の伝統的な離婚傾向と親族構造とのかかわりについて. 『ソシオロジ』 17(1/2).
- S-25 大野 徹. 1971. バガン, ピンヤ, インワ時代のビルマ人仏教徒の呪詛. 『東南アジア研究』 9(2).
- S-26* 石井 米雄. 1971. タイ仏教の構造. 『アジア経済』 12(12).
- S-27 大野 徹. 1971. バガン, ピンヤ, インワ時代のビルマの社会. 『東南アジア研究』 9(3).
- S-28 吉原久仁夫. 1971. フィリピン経済とナショナリズム. 『東南アジア研究』 9(3).
- S-29* 安場 保吉. 1971. 二重構造. 『現代の経済学の展開』
- S-30* YOSHIHARA, Kunio. 1971. A Study of Philippine Manufacturing Corporations. *The Developing Economies* 9(3).
- S-31 YOSHIHARA, Kunio. 1972. The Growth Rate as a Determinant of the Saving Ratio. *Hitotsubashi Journal of Economics* 12(2).
- S-32 YOSHIHARA, Kunio; and RATCLIFFE, Tait. 1972. Productivity Change in the Japanese Economy, 1905-65. *The Economic Studies Quarterly* 23(1).
- S-33 YASUBA, Yasukichi. 1972-73. Modern Economists' Views on the Japanese Economy—A Survey. *Japanese Economic Studies* 1(2).
- S-34 矢野 暢. 1973. 多極化と「従属体系」状況の変容—地域主義との関連—. 『国際政治』 48.
- S-35 YANO, Toru. 1972. Some Characteristics of Political Leadership in Thailand: Sarit Thanarat's "Revolutionary Party Edicts". *The Developing Economies* 10(3).
- S-36 江崎 光男; JORGENSEN, D.W. 1973. マクロ生産性変化の測定1951-1968年. 『日本経済の長期分析—成長・構造・波動—』
- S-37 ICHIMURA, Shinichi; FUKUCHI, Takao; and SAKASHITA, Noboru. 1972. The Present State of Research on Urbanization and its Effect on Cultural Changes in ASPAC Member Countries—A Bibliographic Survey—. *Asian Pacific Quarterly of Cultural and Social Affairs* 4(1).
- S-38* ICHIMURA, Shinichi. 1974. Japanese Entrepreneurship in the Early Stage of Economic Development. *Asian Profile* 2(1).
- S-39* 水野 浩一. 1975. タイ人の家族と宗教. 『アジア文化』 11(4).
- S-40* MAEDA, Narifumi. 1975. Family Circle, Community, and Nation in Malaysia. *Current Anthropology* 16(1).
- S-41* YANO, Toru. 1974. The Political Elite Cycle in Thailand. *The Developing Economies* 12(4).

- S-42* EZAKI, Mitsuo. 1975. Econometric Growth Model and Forecasting Simulations for Postwar Japan: 1952-1980. *The Economic Studies Quarterly* 26(3).
- S-43* YASUBA, Yasukichi. 1975. Anatomy of the Debate on Japanese Capitalism. *The Journal of Japanese studies* 2(1).
- S-44* ICHIMURA, Shinichi. 1975. Interdisciplinary Research and Area Studies. *Journal of Southeast Asian Studies* 6(2).
- S-45* ISHII, Yoneo. 1975. A Note on Buddhistic Millenarian Revolts in Northeastern Siam. *Journal of Southeast Asian Studies* 6(2).
- S-46* MIZUNO, Koichi. 1975. Thai Pattern of Social Organization: Note on a Comparative Study. *Journal of Southeast Asian Studies* 6(2).
- S-47* TSUBOUCHI, Yoshihiro. 1975. Marriage and Divorce among Malay Peasants in Kelantan. *Journal of Southeast Asian Studies* 6(2).
- S-48* EZAKI, Mitsuo. 1975. On the Two-Gap Analysis of Foreign Aid. *Journal of Southeast Asian Studies* 6(2).
- S-49* TSUCHIYA, Kenji. 1975. The Taman Siswa Movement—Its Early Eight Years and Javanese Background. *Journal of Southeast Asian Studies* 6(2).
- S-50* MAEDA, Narifumi. 1975. The Aftereffects of Hajj and Kaan Buat. *Journal of Southeast Asian Studies* 6(2).
- S-51* 水野 浩一. 1976. 家族. 親族集団の国際比較—タイ国と日本—. 『社会学評論』 26(3).
- S-52 YASUBA, Yasukichi. 1976. The Evolution of Dualistic Wage Structure. *Japanese Industrialization and its Social Consequences*.
- S-53* TSUCHIYA, Kenji. 1976. Gerakan Taman Siswa—Delapan Tahun Pertama dan Latar Belakang Jawa Taman Siswa. *Indonesia: Masalah Dan Peristiwa Bunga Rampai*.
- S-54* YASUBA, Yasukichi. 1978. Freight Rates and Productivity in Ocean Transportation for Japan, 1875-1943. *Explorations in Economic History* 15(1).
- S-55* EZAKI, Mitsuo. 1976. Economic Theory and Social Accounting System. *The Journal of Philippine Development* 3(2).
- S-56 YOSHIHARA, Kunio. 1978. Determinants of Japanese Investment in South-East Asia. *International Social Science Journal* 30(2).
- S-57 YASUBA, Yasukichi. 1978. Imported Inflation and the Upward Revaluation of the Yen, 1965-1974. *Breadth and Depth in Economics*.
- S-58 MIZUNO, Koichi. 1979. Urbanization and Rural Change—Tambon Om Noi. *Geography and the Environment in Southeast Asia*.
- S-59 YASUBA, Yasukichi. 1979. Policy-Induced Growth and the Older Generation.

- Japanese Economic Studies* 7(3).
- S-60 ICHIMURA, Shinichi. 1980. Japan and Southeast Asia. *Asian Survey* 20(7).
- S-61 ICHIMURA, Shinichi. 1981. Economic Growth, Savings and Housing Finance in Japan. *Journal of Economic Studies* 8(3).
- S-62 ICHIMURA, Shinichi. 1981. Japanese Firms in Asia. *Japanese Economic Studies* 10(1).
- S-63 ICHIMURA, Shinichi. 1982. The Global Energy Problems and Japanese Crisis Management Policies. *Economic Theory of Natural Resources*.
- S-64* DRABICKI, John Z.; and TAKAYAMA, Akira. 1982. Minimum Wage Regulation and Economic Growth. *Journal of Economics and Business* 34.
- S-65* ICHIMURA, Shinichi. 1982. Debt Accumulation, Oil Crisis and International Financing. *International Financing of Economic Development*.
- S-66 ICHIMURA, Shinichi. 1983. The Critical Problems of Developing Countries. *Interdependence of International Economy and Politics*.
- S-67 YOSHIHARA, Kunio. 1984. Indigenous Entrepreneurs in the ASEAN Countries. *The Singapore Economic Review* 29(2).

自然科学

- N- 1* FUKUI, Hayao; and TAKAHASHI, Eiichi. 1969. Rice Culture in the Central Plain of Thailand (II)—Yield Components Survey in the Saraburi-Ayutthaya Area, 1967—. 『東南アジア研究』 7(2).
- N- 2 TAKAYA, Yoshikazu. 1969. Topographical Analysis of the Southern Basin of the Central Plain, Thailand. 『東南アジア研究』 7(3).
- N- 3 FUKUI, Hayao; and TAKAHASHI, Eiichi. 1969. Rice Culture in the Central Plain of Thailand (III)—A Review of Rice Experiments in Thailand—. 『東南アジア研究』 7(3).
- N- 4* TAKAYA, Yoshikazu. 1969. Topographical Control over the Agriculture in the Mae Nam Delta. *JARQ: Japan Agricultural Research Quarterly* 4 (4).
- N- 5 HATTORI, Tomoo. 1970. Some Properties of Soils and Substrata in the Lampang Basin. 『東南アジア研究』 7(4).
- N- 6* WATABE, Tadayo; AKIHAMA, Tomoya; and KINOSHITA, Osamu. 1970. The Alteration of Cultivated Rice in Thailand and Cambodia. 『東南アジア研究』 8(1).
- N- 7* FUKUI, Hayao; and TAKAHASHI, Eiichi. 1970. Rice Culture in the Central Plain of Thailand (IV)—Response to Nitrogen of Some Native Varieties under

- Field Conditions—. 『東南アジア研究』 8(1).
- N- 8 SMITINAND, Tem; SHIMIZU, Tatemi; KOYAMA, Hiroshige; and FUKUOKA, Nobuyuki. 1970. Contributions to the Flora of Southeast Asia— I. Taxonomy and Phytogeography of Some Temperate Species in Thailand—. 『東南アジア研究』 8(2).
- N- 9 SHIMIZU, Tatemi. 1970. Contributions to the Flora of Southeast Asia— II. *Impatiens* of Thailand and Malaya—. 『東南アジア研究』 8(2).
- N-10 FUKUOKA, Nobuyuki. 1970. Contributions to the Flora of the Southeast Asia— III. *Hedyotis* (Rubiaceae) of Thailand—. 『東南アジア研究』 8(3).
- N-11 AKIHAMA, Tomoya; and WATABE, Tadayo. 1970. Geographical Distribution and Ecotypic Differentiation of Wild Rice in Thailand. 『東南アジア研究』 8(3).
- N-12 MURATA, Gen. 1971. Contributions to the Flora of Southeast Asia— IV. A List of Labiatae Known from Thailand—. 『東南アジア研究』 8(4).
- N-13 FUKUI, Hayao; and TAKAHASHI, Eiichi. 1971. Rice Culture in the Central Plain of Thailand (V) —Possibility of Higher Yield viewed from the Yield Component Surveys in Farmers' Fields—. 『東南アジア研究』 8(4).
- N-14 TAKAYA, Yoshikazu. 1971. Two Brackish Clay Beds along the Chao Phraya River of Thailand. 『東南アジア研究』 9(1).
- N-15 KYUMA, Kazutake. 1971. Climate of South and Southeast Asia according to Thornthwaite's Classification Scheme. 『東南アジア研究』 9(1).
- N-16 OHWI, Jisaburo. 1971. Contributions to the Flora of Southeast Asia— V. Gramineae and Cyperaceae of Thailand—. 『東南アジア研究』 9(2).
- N-17 HORIUCHI, Takatsugu; SAMY, S.J.; and PHANG, C.C. 1971. Grain Loss during Hand Harvesting in the Rice Cultivation in Kedah, West Malaysia. 『東南アジア研究』 9(2).
- N-18* KAIDA, Yoshihiro. 1971. An Analysis of the Effect of Environmental Factors on Paddy Rice Yields—A Case Study from the Northern Region of the Greater Chao Phraya Project—. 『東南アジア研究』 9(2).
- N-19 FUKUI, Hayao. 1971. Environmental Determinants Affecting the Potential Dissemination of High Yielding Varieties of Rice—A Case Study of the Chao Phraya River Basin—. 『東南アジア研究』 9(3).

- N-20 TAKAYA, Yoshikazu. 1971. Physiography of Rice Land in the Chao Phraya Basin of Thailand. 『東南アジア研究』 9(3).
- N-21 HATTORI, Tomoo. 1971. The Quaternary Stratigraphy in the Northern Basin of the Central Plain, Thailand. 『東南アジア研究』 9(3).
- N-22* KYUMA, Kazutake. 1972. Numerical Classification of the Climate of South and Southeast Asia. 『東南アジア研究』 9(4).
- N-23 HATTORI, Tomoo. 1972. Some Properties of Brackish Sediments along the Chao Phraya River of Thailand. 『東南アジア研究』 9(4).
- N-24* KYUMA, Kazutake; and KAWAGUCHI, Keizaburo. 1973. A Method of Fertility Evaluation for Paddy Soils. *Soil Science and Plant Nutrition* 19(1).
- N-25* TAKAYA, Yoshikazu. 1975. An Ecological Interpretation of Thai History. *Journal of Southeast Asian Studies* 6(2).
- N-26 高谷 好一; 友杉 孝. 1976. 東北タイの水田. 『アジア経済』 13(9), 14(3), 15(2), 15(11), 『東南アジア研究』 10(1).
- N-27 TAKAYA, Yoshikazu. 1977. The Agriculture of Nepal: Its ecology and historical development. *Changing Aspects of Modern Nepal*.
- N-28* KYUMA, Kazutake; SUH, Yoon-Soo; and KAWAGUCHI, Keizaburo. 1977. A Method of Capability Evaluation for Upland Soils. *Soil Science and Plant Nutrition* 23.

5. ディスカッション・ペーパー (*印は在庫なし)

- No. 1* YOSHIHARA, Kunio. 1969. *The Application of Alternative Demand Models to the Japanese Expenditure Pattern*.
- No. 2* YOSHIHARA, Kunio. 1969. *The Growth Rate as a Determinant of the Saving Ratio*.
- No. 3* YOSHIHARA, Kunio. 1969. *A Theory of Cost of Living and Real Income*.
- No. 4* ICHIMURA, Shinichi *et al.* 1969. *An Econometric Analysis of Postwar Japanese Economy: Chapter III—Detailed Discussion of the Model—*.
- No. 5* YOSHIHARA, Kunio *et al.* 1969. *The Problem of Accounting for Productivity Change in the Construction Price Index*.
- No. 6* ICHIMURA, Shinichi *et al.* 1969. *An Econometric Analysis of Postwar Japanese Economy: Chapter II—Outline of the Osaka Model—*.
- No. 7 ICHIMURA, Shinichi *et al.* 1969. *An Econometric Analysis of Postwar Japanese Economy: Chapter VI—The Compilation of Data—*.
- No. 8* YOSHIHARA, Kunio; and RATCLIFFE, Tait. 1970. *Productivity Change in the Japanese Economy, 1905-65*.
- No. 9* ICHIMURA, Shinichi. 1970. *The Challenge of Rising Sun*.
- No.10* EZAKI, Mitsuo; and JORGENSON, Dale W.

1971. *The Measurement of Productivity Change in the Japanese Economy, 1952-1966.*
- No.11* ISHII, Yoneo. 1971. *Ecclesiastical Examination in Thailand.*
- No.12* } MIZUNO, Koichi. 1971. *Social System of Don Daeng Village: A Community Study*
No.22* } *in Northeast Thailand.*
- No.23* MAEDA, Narifumi. 1971. *Economic Activities among the Orang Hulu.*
- No.24* MAEDA, Narifumi. 1971. *Authority and Leadership among the Orang Hulu.*
- No.25* EZAKI, Mitsuo. 1971. *A Note on the Measurement of Productivity Change.*
- No.26* } MOTOOKA, Takeshi. 1971. *Agricultural Development in Thailand.*
No.29* }
- No.30* MIZUNO, Koichi. 1971. *For a Comparative Study on "Industrialization and Rural Communities" (with an Illustration of Rural Japan).*
- No.31* YASUBA, Yasukichi. 1971. *Revaluation of Yen—A Strategy for Equitable and Realistic Revaluation—.*
- No.32* MOTOOKA, Takeshi. 1971. *Responsibility of Agricultural Education in Southeast Asian Development.*
- No.33* TSUJII, Hiroshi. 1971. *An Econometric Analysis of the Effects of Technological Improvements in Rice Production on Rice Trade among Thailand, Indonesia and the World.*
- No.34* KYUMA, Kazutake; and KAWAGUCHI, Keizaburo.
1971. *Fertility Evaluation of Paddy Soils in South and Southeast Asia—First Approximation: Chemical Potentiality Rating—.*
- No.35* ICHIMURA, Shinichi; and BACHATIAR, Harsja W.
1972. *The First Preliminary Report of the Economic Survey of South Sumatra—The Pilot Survey and its Findings—.*
LEKNAS-KYODAI Preliminary Report No. 1.
- No.36 ICHIMURA, Shinichi; and BACHATIAR, Harsja W.
1972. *A Summary of Gross Provincial Product Estimation for South Sumatra Province, 1970.* LEKNAS-KYODAI Preliminary Report No. 2.
- No.37* HUTABARAT, Panangaran. 1972. *The Estimation of Value Added in Finance Sector of South Sumatra, Indonesia, 1970.* LEKNAS-KYODAI Preliminary Report No. 3.
- No.38* MIZUNO, Koichi. 1972. *Japanese Scholarship on Southeast Asian Villages—A Socioanthropological View—.*
- No.39* MOTOOKA, Takeshi. 1972. *The Role of Rural Institutions, Especially of Farmer's Organization in Asian Rural Development.*
- No.40* KYUMA, Kazutake; and KAWAGUCHI, Keizaburo.

1972. *Fertility Evaluation of Paddy Soils in South and Southeast Asia—Second Approximation: Evaluation of Three Independent Constituents of Soil Fertility.*
- No.41* LUTHAN, Julian. 1972. *Value Added of The Mining and Quarrying Industries in South Sumatra, 1970.* LEKNAS-KYODAI Preliminary Report No. 4.
- No.42* THEE Kian Wie. 1972. *An Estimation of Gross Value Added of Commerce in the Province of South Sumatra in 1970.* LEKNAS-KYODAI Preliminary Report No. 5.
- No.43* HUTABARAT, Panangaran. 1972. *An Estimation of Gross Value Added of Electricity, Gas and Water Supply and of Ownership of Dwelling in the Province of South Sumatra in 1970.* LEKNAS-KYODAI Preliminary Report No. 6.
- No.44* SIREGAR, Muchtarudin; and BATUBARA, Januar. 1972. *The Estimation of Value Added of the Transport and Communications Sector in South Sumatra in 1970.* LEKNAS-KYODAI Preliminary Report No. 7.
- No.45* TAMBA, Jonker Leonard. 1972. *Estimation of Regional Income Originating from the Government Sector in South Sumatra, 1970.* LEKNAS-KYODAI Preliminary Report No. 8.
- No.46* MOTOOKA, Takeshi. 1972. *Basic Problems of Industrial Development in Relation to the Agricultural Sector in Southeast Asia.*
- No.47* MOTOOKA, Takeshi. 1972. *Some Observations on the Green Revolution in India: A Brief Report of the Invitation Trip of Indian Government in November and December of 1971.*
- No.48 EZAKI, Mitsuo. 1972. *Two Notes: I. On the Theory of National Accounting. II. Quality Indexes of Capital, Labor and Output in the Measurement of Productivity Change.*
- No.49* ICHIMURA, Shinichi. 1972. *Institutional and Methodological Problems on Multidisciplinary Research in Asian Area Studies.*
- No.50* LUTHAN, Julian. 1972. *An Estimation of Gross Value Added of the Manufacturing and Construction Industries in the Province of South Sumatra in 1970.* LEKNAS-KYODAI Preliminary Report No. 9.
- No.51* BASIR, Kimin. 1972. *The Service Sector of South Sumatra, 1970.* LEKNAS-KYODAI Preliminary Report No. 10.
- No.52* THEE Kian Wie. 1972. *An Estimation of Gross Value Added of the Agricultural Sector in the Province of South Sumatra in 1970.* LEKNAS-KYODAI Preliminary Report No. 11.

- No.53* ISHII, Yoneo; AKAGI, Osamu; and ENDO, Noriko. 1972. *A Grossarial Index of the Sukhothai Inscriptions.*
- No.54* KAIDA, Yoshihiro. 1972. *Mathematical Models on the Optimization of the Amounts and the Scheduling of Intraseasonal Irrigation, and Cropping Patterns.*
- No.55* THEE Kian Wie. 1972. *Report on the Main Field Survey.* LEKNAS-KYODAI Preliminary Report No. 12 (with Statistical Appendix).
- No.56 THEE Kian Wie. 1972. *Revised Summary of Gross Provincial Product Estimation for the Province of South Sumatra, 1970.* LEKNAS-KYODAI Preliminary Report No. 13.
- No.57 THEE Kian Wie. 1973. *South Sumatra's External Trade in 1970.* LEKNAS-KYODAI Preliminary Report No. 14.
- No.58* EZAKI, Mitsuo. 1972. *The Two-Gap Analysis of Foreign Aid: A Comment on the Chenery-Strout Model.*
- No.59 THEE Kian Wie. 1973. *An Estimation of Private Consumption in South Sumatra in 1970.* LEKNAS-KYODAI Preliminary Report No. 15.
- No.60* TSUBOUCHI, Yoshihiro. 1973. *A Collection of Socio-Economic Data of a Malay Village in Kelantan.*
- No.61* ICHIMURA, Shinichi. 1973. *Interdisciplinary Research and Area Studies.*
- No.62* ICHIMURA, Shinichi; and YANO, Toru. 1973. *Books on Japan—An Annotated Bibliography—.*
- No.63* ICHIMURA, Shinichi. 1973. *Japanese Entrepreneurship in the Early Stage of Economic Development.*
- No.64* KOENTJANINGRAT. 1973. *Village Life South of Jakarta—Brief Report of a Comparative Study on "Village Life Around Capital Cities of Southeast Asia."*
- No.65* SAKDEJAYONT, Yut. 1973. *Village Life Near Bangkok—Brief Report of a Comparative Study on "Village Life Around Capital Cities of Southeast Asia."*
- No.66* ICHIMURA, Shinichi. 1973. *Japan's Stake in Asia.*
- No.67 TAMBA, Jonker Leonard. 1973. *The Estimation of Capital Formation in South Sumatra, 1970.*
- No.68* YASUBA, Yasukichi. 1973. *The Evolution of Dualistic Wage Structure.*
- No.69* CUYUGAN, R. Santos; and BONIFACIO, M. Flores. 1973. *Rural Philippine Communities: A Case Study of the Impact of Industrialization—Brief Report of a Comparative Study on "Village Life Around Capital Cities of Southeast Asia."*
- No.70* MAEDA, Narifumi. 1974. *Abstract—The Changing Peasant World in a Melaka Village: Islam and Democracy in the Malay Tradition—.*

- No.71* EZAKI, Mitsuo. 1974. *A Complete System of Private Accounts.*
- No.72* EZAKI, Mitsuo. 1974. *An Econometric Model and Simulation Analyses for Postwar Japan's Aggregate Economy, 1952-1980.*
- No.73* MAEDA, Narifumi. 1974. *The Aftereffects of Haji and Kaan Buat.*
- No.74* ICHIMURA, Shinichi. 1974. *Japan: The Rising Sun or the Sinking Ship—The Energy Problem and the Food Shortage—.*
- No.75* TSUJII, Hiroshi. 1974. *An Econometric Model of the International Rice Market and Analyses of the National Rice Policies in Thailand, Indonesia, Japan, and the United States.*
- No.76* ISHII, Yoneo; AKAGI, Osamu; and TANABE, Shigeharu. 1974. *An Index of Officials in Traditional Thai Governments, Volume I—Part 1: The Law of Civil Hierarchy and the Law Military and Provincial Hierarchies.*
- No.77 MOKHZANI, B.A.R. 1974. *Gombak: A Malay Village East of Kuala Lumpur—Brief Report of a Comparative Study on "Village Life Around Capital Cities of Southeast Asia—."*
- No.78* YOSHIHARA, Kunio; and ADACHI, Kyoichiro. 1975. *Japanese Direct Industrial Investment in Korea, Hong Kong, Singapore and Taiwan.*
- No.79* TSUJII, Hiroshi. 1975. *A Quantitative Model of the World Rice Market and Analyses of the National Rice Policies with Special Reference to Thailand, Indonesia, Japan and the United States.*
- No.80* YANO, Toru. 1975. *Southeast Asia: A Kaleidoscope of Japanese Images.*
- No.81* ICHIMURA, Shinichi; and YANO, Toru. 1975. *The Future Pattern of Japanese Economic and Political Relations with Southeast Asia.*
- No.82* DIFFLOTH, Gerard. 1976. *Appraisal of Benedict's View on Austroasiatic and Austro-Thai Relations.*
- No.83* YANO, Toru. 1975. *The Greater East Asia Co-prosperity Sphere: Setting the Stage for the Cold War in Southeast Asia.*
- No.84* YANO, Toru. 1975. *ASEAN in the New Setting of Asia: A Japanese View.*
- No.85 KYUMA, Kazutake. 1976. *Paddy Soils in the Mekong Delta of Vietnam.*
- No.86* NISHIMURA, Hiroyuki. 1976. *Technical and Socio-Economic Constraints on Farm Development—A Review of the Kinds and Sources of Farmers' Information.*
- No.87* TSUJII, Hiroshi. 1976. *Rice Economy and Rice Policy of South Vietnam, Economic and Statistical Analysis.*
- No.88* DIFFLOTH, Gerard. 1976. *Proto-Mon-Khmer Final Spirants.*

- No.89* TSUJII, Hiroshi. 1976. *Effect of Climatic Fluctuation on Rice Production in Continental Southeast Asia—A Proposal of a Multidisciplinary Approach—*.
- No.90* EZAKI, Mitsuo. 1977. *Growth Accounting of the Philippines: A Comparative Study of the 1965 and 1969 Input-Output Tables*.
- No.91* DIFFLOTH, Gerard. 1976. *Translation of a Part of A.A. Moskalev's "Grammar of the Chuang Language."*
- No.92* YAMAKAGE, Susumu. 1977. *Interdependence of the ASEAN Region —The Transaction Analysis of Trade Flows, 1950, 1960, 1970—*.
- No.93* YAMAKAGE, Susumu. 1977. *Extra-Regional Dependence of the ASEAN Region—The Transaction Analysis of Trade Flows, 1950, 1960, 1970—*.
- No.94* EZAKI, Mitsuo. 1977. *Growth Accounting of the Philippines: The Demand-for Output Side*.
- No.95* TANABE, Shigeharu. 1977. *Historical Geography of the Canal System in the Chao Phraya Delta from the Ayutthaya Period to the Fourth Reign of the Ratanakosin Dynasty*.
- No.96* KYUMA, Kazutake *et al.* 1978. *A Study of Padi Cultivation in the State of Sarawak*.
- No.97* KYUMA, Kazutake. 1978. *Paddy Soils in the State of Sarawak, East Malaysia*.
- No.98* EZAKI, Mitsuo. 1978. *Growth Accounting of Postwar Japan: The Input Side*.
- No.99* TSUBOUCHI, Yoshihiro. 1978. *Indonesians at Work through Japanese Eyes*.
- No.100* FUKUI, Hayao. 1978. *Climate Variability and Agriculture—The Humid Tropics—*.
- No.101* EZAKI, Mitsuo. 1978. *Linking National Econometric Models of Japan, U.S.A., and the East and Southeast Asian Countries: A Pilot Study*.
- No.102 ICHIMURA, Shinichi. 1978. *Argentine Economy and the World Food Market, Especially the Asian Market Ten Year's Perspectives*.
- No.103 FURUKAWA, Hisao. 1979. *Manual for Field Soil Records*.
- No.104* YASUBA, Yasukichi. 1979. *Another Look at the Tokugawa Heritage with Special Reference to Social Conditions*.
- No.105 YAMAKAGE, Susumu. 1979. *Interdependence and Conflict: A Two-Actor Model of a Transaction with an Application to Japanese-Southeast Asian Relations*.
- No.106 ICHIMURA, Shinichi. 1979. *Japanese Industrial Restructuring Policies, 1945-1979*.
- No.107* EZAKI, Mitsuo. 1979. *The Bank of Thailand Model and its Application to Policy Simulations*.
- No.108 ICHIMURA, Shinichi. 1979. *Southeast and East Asia in 1980*.
- No.109 YAMAKAGE, Susumu. 1980. *ASEAN's Political Cooperation, 1967-77: A Performance Analysis of Foreign Ministers' Meetings*.
- No.110 ICHIMURA, Shinichi. 1980. *Institutional Factors and the Government Policies for Appropriate Technologies in Southeast Asia—A Framework of*

Empirical Study—.

- No.111* ICHIMURA, Shinichi. 1981. *The Grobal Energy Problems and Japanese Crisis Management Policies.*
- No.112* ICHIMURA, Shinichi. 1981. *Economic Growth, Savings and Housing Financing in Japan.*
- No.113* ICHIMURA, Shinichi. 1982. *Moving up the Market: Transformation of Industrial Structure and Economic Policies.*
- No.114* ICHIMURA, Shinichi. 1982. *US-Japan Economic Problems.*
- No.115 GINES, Hermenegildo C. 1982. *Paddy Land Suitability Classification in Relation to Its Potential for Multiple Cropping Systems: A Case Study of the Central Plain of Luzon.*
- No.116* EZAKI, Mitsuo. 1982. *An Econometric Model of Indonesia with Particular Reference to the Monetary Sector: 1970–1980.*
- No.117* EZAKI, Mitsuo. 1983. *Japan and the Southeast Asia: A Quantitative Appraisal of Their Economic Relations.*
- No.118* EZAKI, Mitsuo; SHIBAYAMA, Mamoru; and ICHIMURA, Shinichi. 1984. *An Econometric Link System for the East and Southeast Asian Countries, Japan and the United States.*
- No.119* ICHIMURA, Shinichi; and EZAKI, Mitsuo. 1985. *Economic Growth, Interdependence and Rivalry in East Asia.*
- No.120* EZAKI, Mitsuo. 1985. *A Computable General Equilibrium Model of the Japanese Economy.*
- No.121 OMAR FAROUK S.A.B. 1987. *The Muslims and the 1986 General Election.*
- No.122* ICHIMURA, Shinichi. 1987. *The Pattern and Process of Asian Economic Development.*

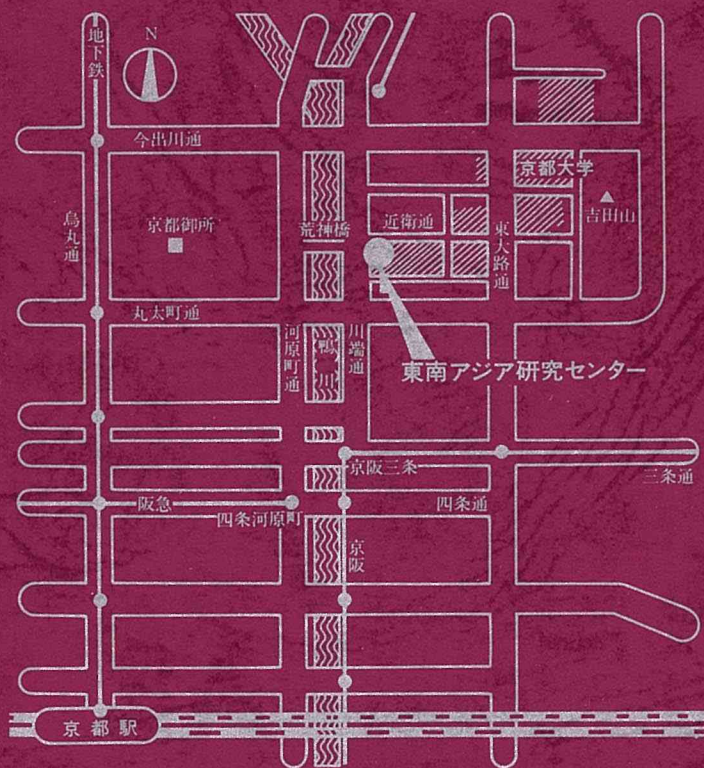
お 願 い

ジャカルタ連絡事務所が昭和63年3月末より下記へ移転しますので、7ページのジャカルタ連絡事務所の住所および電話番号を下記のようにご訂正ください。

記

Jalan Gunawarman, No. 47, Kebayoran
Baru, Jakarta, Indonesia
電話 720-3668

案内地図



「京都駅前」から市バス4、14、特17、または205に乗車。
河原町通「荒神口」で下車、東へ徒歩5分。

京都大学東南アジア研究センター

〒606 京都市左京区吉田下阿達町46 電話(075)751-2111 内線7302

